吉　塚　11

－吉塚遺跡第 13 次調査報告－

福岡市埋蔵文化財調査報告書　1299 集

2016

福岡市教育委員会

序

玄界灘に面し古くから大陸との文化交流の玄関口であった福岡市には、豊かな自然と文化が残されています。その中でも博多区は大陸との交流で古くから栄え、遺跡も多く存在しています。これらを保護し、未来へと伝えていくのは本市に課せられた責務であります。しかし、近年の著しい都市化による市街地の拡大により、その一部が急速に失われつつあることもまた事実です。福岡市教育委員会は開発によってやむを得ず失われていく遺跡について、事前の発掘調査を行い、記録の保存に努めています。

今回報告する吉塚遺跡１３次の発掘調査報告書は共同建設に伴う調査成果についての記録です。この調査では古墳時代から近世の集落や水田を確認し、多量の土器が出土しました。本書が文化財保護への理解と認識を深める一助となり、また研究資料として御活用頂ければ幸いに存じます。

最後に発掘調査から報告書の刊行に至るまで、多くの方々のご理解とご協力を賜りましたことに対して心から謝意を表する次第であります。

2016年3月25日

福岡市教育委員会
教育長　酒井龍彦

例言

□本報告書は博多区堅粕4丁目413-2、413-6、415-1、419-2、420-5の共同住宅建設工事に伴って2014年4月14日から2014年6月27日にかけて発掘調査を行った吉塚遺跡第13次調査の報告書である。

□本書に収録した発掘調査は福岡市経済観光文化局の屋山洋が担当した。

□遺構実測と写真撮影は屋山、遺物実測と製図等を濱石正子、大庭友子、副田則子、屋山が担当した。

□本書で用いた方位は磁北である。

□本書に関わる図面・写真・遺物など一切の資料は福岡市立埋蔵文化財センターに収蔵・保管される予定である。

遺跡調査番号	１４０３	遺跡番号	０１２３	分布地図番号	博多駅36
調査地地番	福岡市博多区堅粕4丁目413-2、413-6、415-1、419-2、420-5				
開発面積	1400㎡	調査面積	427㎡	調査原因	共同住宅建設
調査期間	20140414 ～ 20140627		担当者	屋山　洋	

吉 塚１１

－吉塚遺跡第 13 次調査報告－

福岡市埋蔵文化財調査報告書 1299 集

遺跡略号 YSZ － 13
調査番号１４０３

２０１６

福岡市教育委員会

目　次

Ⅰ はじめに …… 1
Ⅱ 調査の記録 …… 4
1. 調査の経過 …… 4
2. 調査の概要 …… 4
3. 遺構と遺物 …… 4
1）井戸 …… 4
2）土抗 …… 10
3）溝 …… 21
4）谷 …… 34
5）水田 …… 34
6）動物遺存体 …… 34
7）その他の遺物 …… 35
4. 小結 …… 35

挿　図

第１図　周辺遺跡分布図 …… 2
第２図　調査地点位置図 …… 2
第３図　調査区位置図 …… 3
第４図　第１面平面図 …… 5
第５図　第２面平面図 …… 6
第６図　第３面平面図 …… 7
第７図　井戸実測図 …… 9
第８図　井戸出土遺物実測図 …… 10
第９図　土抗実測図１ …… 11
第10図　土抗実測図２ …… 12
第11図　土抗実測図３ …… 13
第12図　土抗実測図４ …… 15
第13図　土抗出土遺物実測図 …… 16
第14図　溝土層図１ …… 17
第15図　溝土層図２ …… 18
第16図　溝断面図１ …… 19
第17図　溝出土遺物１ …… 20
第18図　溝土層図３ …… 22
第19図　溝出土遺物２ …… 23
第20図　溝出土遺物３ …… 24
第21図　溝出土遺物４ …… 25
第22図　1007 出土遺物実測図 …… 26
第23図　漁労関係遺物実測図 …… 27
第24図　弥生時代遺物実測図 …… 28
第25図　古墳時代～古代出土遺物１ …… 30
第26図　古墳時代～古代出土遺物２ …… 31
第27図　古墳時代～古代出土遺物３ …… 32
第28図　古墳時代～古代出土遺物４ …… 33

表

表１　遺構一覧１ …… 36
表２　遺構一覧２ …… 37
表３　遺構一覧３ …… 38
表４　遺構一覧４ …… 39
表５　遺構一覧５ …… 40

図版

図版１
1. Ⅰ区１面全景　2. Ⅰ区２面全景
図版２
1. Ⅰ区３面全景　2. Ⅱ区１面全景
図版３
1. Ⅱ区２面全景　2. Ⅱ区北側
図版４
1. SE1064　2. SE1064 井筒　3. SE1064 土層　4. SE2137　5. SE2137・SD2128 土層
6. SE3147　7. SE3147　8. SE3148
図版５
1. SK3023　2. SK1065　3. SK2104　4. SK2104 土層　5. SK3001　6. SK3002　7. SK3003　8. SK3004
図版６
1. SK3006　2. SK3146　3. SK3149　4. SK3149 遺物出土状況　5. SX3144　6. SX3144 土層　7. Ⅱ区２面東側
8. 申請地東側（廃土置き場）
図版７
1. SD1092　2. SD1092 土層　3. SD2011　4. SD2011 漆器出土状況　5. SD2128　6. SD3021 土層
7. SD3006　8. SD3019
図版８
1. 3007（水田）土層　2. SD3019 土層　3. SD3021　4. SD3145　5. SD3021　6. SD3145 土層
7. Ⅰ区南壁土層　8. Ⅱ区１面遺構検出状況

Ⅰ．はじめに

1　調査に至る経緯

平成25年（2013年）11月26日付けで博多区堅粕4丁目413－2、413－6、415－1、419－2、420－5の共同住宅建設に伴う埋蔵文化財有無の事前調査依頼（25－2－943）が提出された。申請地は周知の埋蔵文化財包蔵地である吉塚遺跡内に位置し、申請地に隣接する1次調査でも弥生時代から近代までの遺構が確認されている。その後、平成26年1月27日に遺構密度確認のため確認調査を行ったところ、地表面から110～155cmで古墳時代～中世の遺物を含む層を確認し、遺構面も3面程あることが判明した。これらから埋蔵文化財審査課では建設に先だって埋蔵文化財の発掘調査を行い、記録保存を図ることが必要であると判断して原因者と協議を進め、平成26年4月14日から6月27日にかけて発掘調査を行った。調査期間中は表土剥ぎや水道の設置など原因者及び関係各位の多大なご協力を頂いた。記して感謝したい。

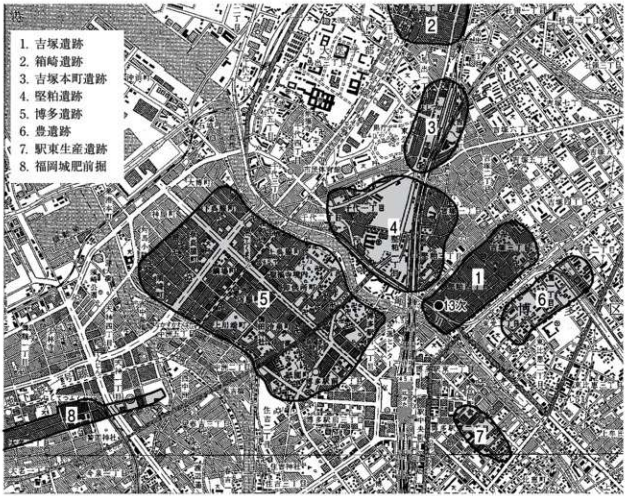
2　調査の組織

調査主体　福岡市教育委員会（発掘調査　平成26年度：整理報告　平成27年度）
調査統括　福岡市経済観光文化局文化財部埋蔵文化財調査課
埋蔵文化財調査課長　常松幹雄（平成26・27年度）
同課調査第1係長　吉武　学（平成26・27年度）
庶務　埋蔵文化財審査課審査係　川村啓子（平成26・27年度）
調査担当　埋蔵文化財調査課　屋山　洋

作業員　阿部純子　阿比留一郎　岩佐克行　江浜明徳　緒方圭子　岡部安正　岡村まどか
河原明子　児玉和美　近藤英彦　坂口壽美子　須佐恵司　節政善憲　芹川純子
田尻由紀子　田端名穂子　宮岡洋子　永松弘恵　西藤勝喜　野内聖司　枦山恵子
吹春憲治　中村健三　竹内武俊　安武陽子　山下直美　山田美恵子　鷲崎哲夫
鷲津真二郎　脇田誠二　迎健司　坂梨美紀　松下さゆり　日高芳子
整　理　濱石正子　大庭友子　坂口龍子　副田則子

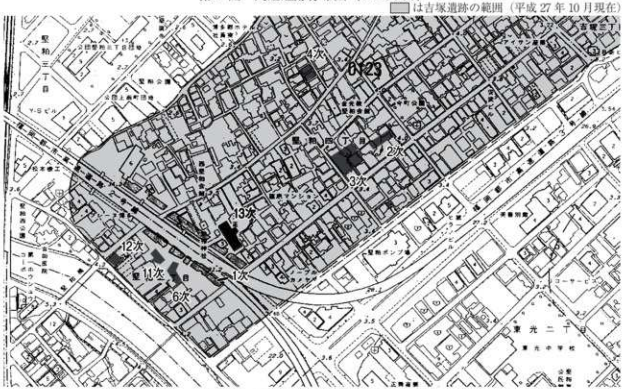
3　調査区の立地と環境

吉塚遺跡は博多湾に面した砂丘上に位置する。弥生時代から近代まで続く複合遺跡で、近隣の調査では弥生時代終末の竪穴式住居や古墳時代の土坑、古代末から中世にかけての溝や土坑、井戸などが出土している。13次調査地点は砂丘の南西端部近くに位置し、北西部の約1/4が砂丘で、残りは谷もしくは流路である。砂丘上の遺構は古墳時代と考えられる土坑と井戸が出土した以外は古代から近世にかけてのもので、溝数条、井戸4基、土坑数基が出土した。谷は南北に延び、南端部では近世～近代の水田が出土した。中央部分では埋没した谷に何度も溝が掘られている。遺物は龍泉窯系青磁碗等の貿易陶磁器が出土しており古代末から中世前半に属すると考えられる。谷の土層は厚さ15～30cmの灰白色シルトで大きく上下に分けられるが、上層では中世後半の遺物と共に古墳時代前期、古墳時代後期から8世紀、11～12世紀の遺物が多量に出土した。シルト下層は更に2層に分けられ、第1層は古墳時代前期、下層では弥生時代中～後期の遺物が出土した。弥生時代の層の底面は東側にむけて緩やかに傾斜しており、調査区内では立ち上がりは確認できなかったため、当時の谷幅はかなり広く、砂丘の南側に開口する谷ではなく、砂丘を分断する河川の可能性が考えられる。

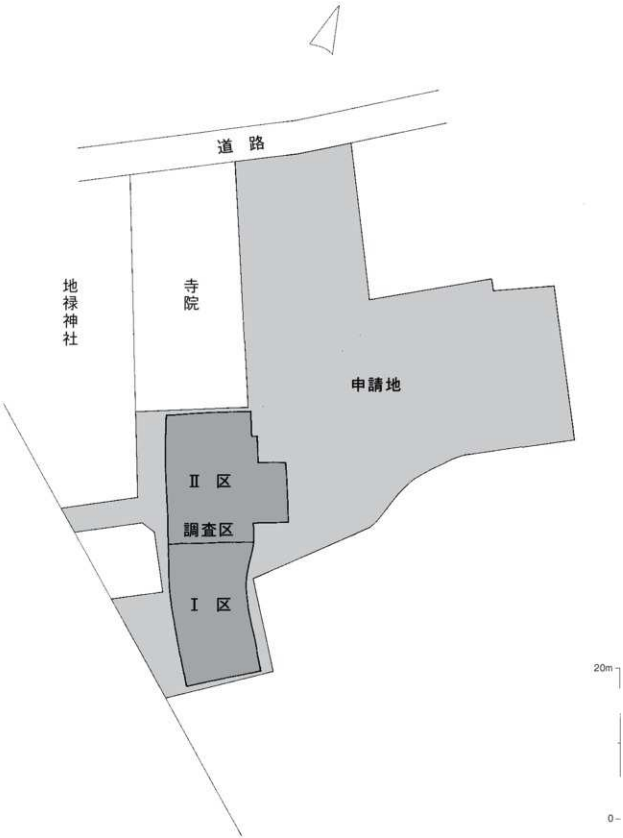


第１図　周辺遺跡分布図（1/25000）

□は吉塚遺跡の範囲（平成 27 年 10 月現在）



第２図　調査地点位置図（1/4000）



第３図　調査区位置図（1/500）

Ⅱ．調査の記録

1　調査の経過

申請地は2129.55㎡を測る。調査着手時には自走式の立体駐車場の計画などもあり、最終的な調査面積は決定していなかったが、その後、遺構面まで達するような掘削を伴う開発は南西端の道路に接した共同住宅建設部分のみに決定したため、調査面積は427㎡となった。調査は廃土置き場の都合から南北半分に分けて、南側のⅠ区から着手した。確認調査時に厚さ40㎝程の包含層が確認されており、その包含層も上下２層に分けられるため計３面の遺構面を設定して発掘調査を行った。調査はまず４月２日に現地で原因者側と協議を行い、日程等の打ち合わせを行い、それを元に４月７日原因者側で行った表土剥ぎに立ち会い、４月14日に機材の搬入を行ってⅠ区の調査を開始した。４月21日に１面目の全景写真を撮影、それから23～28日で２面目まで人力で掘り下げた。４月30日から２面の調査を始め５月７日に全景写真を撮影、５月８日から２面から３面目までの掘り下げを開始した。雨のため作業が進まず３面目を開始したのが５月16日である。５月23日に３面目の全景写真を撮影し、５月21日からⅡ区１面目の調査を開始した。６月２日に１面目の全景を撮影、１面目から２面目までの掘り下げは３日から５日までかかり、６月６日に２面目の調査を開始した。６月18日に２面目の全景写真を撮影、19日に遺構の個別写真を撮影、その後はベルト等を壊しながら遺構の実測を進めて、６月25日に実測終了。６月27日に機材を撤去して調査を終了した。調査面を３面設けたことで１面ごとの調査日数が短くなり、遺構検出等が粗くなったためか、Ⅰ区とⅡ区の遺構がズレるなどの弊害が生じた。今回の調査の目的には谷部の各堆積層の時代確定もあり、調査の概要でおおよその目安を書いているが、Ⅰ区１面の溝と同様に検出できなかった遺構も多いと思われ、時期は断定しがたい。

調査の概要

第１面目の標高は2.60ｍ、第２面目は2.30ｍ、第３面は2.10ｍを測る。北側のⅠ区では第１面から30㎝下で砂丘面に達したため、調査は第２面で終了した。第１面は茶褐色土を盤にしており、遺構の時期は古代～近世である。第２面は褐灰色砂質土の上面で、第３面目は谷の埋土を除去した灰白色の粗砂層上で検出し、遺構の時期は古墳時代～古代前半である。灰白色粗砂層も上層は弥生時代から古墳時代の遺物を含んでおり、砂丘上から遺物が流れ込んだものと思われる。粗砂層の下は砂層と礫層の堆積で遺構がある可能性は低い。トレンチを掘り下げたが、湧水で崩壊しかけたので中止した。

3　遺構と遺物

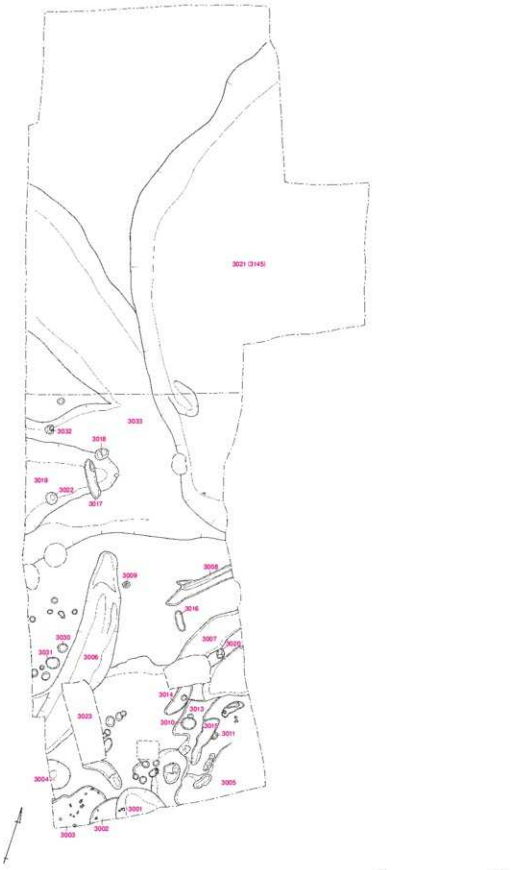
出土した遺物の詳細はP36～P40の遺構一覧表に記載している。

1）井戸　Ⅱ区北側の砂丘上で４基出土した。

SE1064（第７図）　調査区の北西角に位置する。第１面の調査で出土した。遺構の西側半分が調査区外に伸び、遺構の北端は攪乱により削平を受けている。平面形は楕円に近いと思われ、主軸はほぼ南北を向いている。現状で南北推定2.4ｍ、東西1.65ｍを測る。掘方断面は逆台形を呈し、遺構検出面から70㎝掘り下げて平坦面を整えた後、中央部を径１ｍ、深さ35㎝程逆台形に掘り下げている。底径は87㎝、底面の標高は1.55ｍを測る。井筒は桶組みと思われるが、痕跡のみで木質は遺存していない。井筒の下端は底面から12㎝程浮く。一度掘り下げたのち、12㎝埋め戻して井筒をおいているのは下端から水が流入しやすくするためか。井筒の下に石や木片などを据えて固定したような痕跡は見られない。土層から埋没時に井筒下端から65㎝までは遺存していたが、それから上は撤去もしくは崩壊したようで図の３層から上は井筒の痕跡は見られない。掘方の土は薄い暗灰褐色土や灰褐色土の間に黄褐色砂層を挟む。水平方向に近い盛り土である。井筒内の下半は暗灰褐色土で炭化物を多く

第４図　第１面平面図（1/160）

第５図　第２面平面図（1/160）



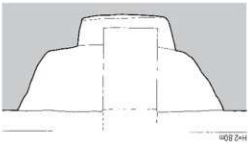
第６図　第３面平面図（1/160）

含む。上層は暗灰褐色土や褐色土がレンズ状に堆積しており、掘方の土が崩壊して流れ込んだものである。出土遺物（第８図 001 ～ 003）。井筒掘方からは龍泉窯系青磁腕Ⅱ類や白磁水中片など 13 世紀代の遺物が出土した。001 ～ 003 も掘方からの出土である。001 は白磁碗片で外面に連弧文がみられる。釉は薄い水色を呈す。002 は底部糸切りの土師坏で復元底径 10.4cmを測る。色調はにぶい黄橙色で胎土に雲母片と赤色粒を少量含む。003 は白磁水柱の注ぎ口の一部である。遺存長 5.7cm、径 2.1cmを測る。釉は灰白色をを呈す。井筒内からは極小片であるが天目腕が出土している。埋没時は 13 世紀後半から 14 世紀頃か。遺物はその他に弥生時代～古代の遺物が多く出土した。特に今回の調査で明確な遺構が確認できなかった６～７世紀の須恵器も坏蓋や坏が出土しており、近辺に古代の遺構が存在したことをうかがわせる。

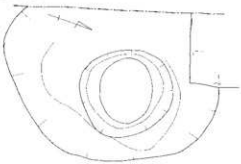
SE2137（第７図）　調査区北西部の砂丘上に位置する。Ⅱ区第２面の調査で出土した。SD1092 に切られており、遺構の西端が調査区外に伸びる。平面形は楕円形で主軸はN - 15° - W を測る。長径 130cm、底径 87cm、検出面からの深さ 69cmを測る。底面の標高は 1.26 m を測る。堀方断面は逆台形を呈す。埋土は灰褐色土と黄色砂がレンズ状に堆積する。土層からは井筒は確認できなかった。素掘りで壁の崩落で埋没している。埋土中から龍泉窯系青磁腕Ⅰ・Ⅱ類（内定面にスタンプ有り）や高麗象眼青磁の瓶片、白磁片、陶器片、土師坏、土師腕などが出土しており、埋没時期は 14 世紀頃と考えられる。遺物はその他に弥生後期の甕や古墳時代前期の土師器、似非須土師器の甕などが出土している。

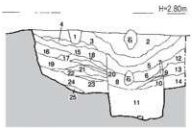
SE3147（第７図）　調査区北端の砂丘上に位置する。砂丘上で東側に開析する谷の縁部に位置する。本来は埋没した谷の上面から掘り混んだ可能性もあるが、遺構検出では確認できなかった。遺構平面は楕円形を呈し、谷の縁から径１m、深さ 50cm程の範囲で砂丘を抉ってから平坦面をなし、その中央に不整楕円形で長径 105cm、短径 98cm、深さ 20cm程を半球状に掘り下げている。下段の掘り込みの主軸は N - 4° - E を測る。底面標高は 1.32 m を測る。土層からは井筒は確認できず素掘りの井戸であったと思われる。井戸内埋土は暗茶褐色土である。出土遺物（第８図 004 ～ 007）。出土した遺物量は少なく甕や二重口縁壺など古墳時代前期の土器片が出土した。004 は土師甕口縁部で色調は外面黒色、内面はにぶい黄橙色を呈す。調整は外面が横ナデ、内面は口縁が横ハケ後ナデ、頸部はナデである。胎土は 0.5mm程の白色砂と雲母片を少量含む。005 は壺の底部である。復元底径 3.6cmを測る。色調は内外面とも灰黄褐色で、外面は黒斑がある。調整は外面が粗い縦ハケ、内面はこまかな斜め方向のハケを施す。胎土は 1mm程の白色砂と雲母片を含む。006 は弥生時代の甕口縁である。色調は内外面とも橙色を呈し、調整は口縁端のみ横ナデで後はハケを施す。007 は鉢口縁で色調は外面が暗褐色、内面は灰黄褐色を呈す。調整は全体にナデで、内面は口縁端にハケ、下にユビオサエの痕跡が残る。この他に弥生時代後期から終末にかけての土器片も出土した。遺構の時期は古墳時代前期に属する可能性がある。

SE3148（第７図）　調査区北端の砂丘上に位置し、SE3147 の西側に隣接する。Ⅱ区２面目の調査で確認した。確認調査時のトレンチで遺構の西半分が削られている。遺構は谷（3150）の縁部に位置する。遺構平面は削平のため不明であるが、長径は 1.5 ～ 2 m程で砂丘面から 60cmほど逆台形に掘り込み井筒を据えている。底径は約 80cm、底面標高は 1.65 m を測る。井筒は木製で径 40cmを測り、掘方底面に接して置かれている。木質は腐敗のため消失しており痕跡のみの遺存で、その痕跡も底面から５cmしか確認できなかった。埋土は暗褐色土である。埋土中から弥生時代中期の甕片１点と土器小片が３点出土した。土器小片は古墳時代の土師器の可能性が高いと思われる。



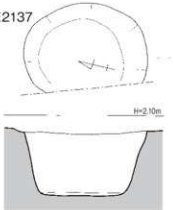
SE1064



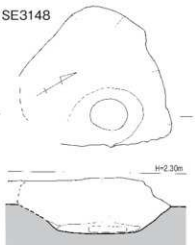


1. 黒褐色土
2. 黒褐色土　　炭化物小片含む
3. 黒褐色土　　茶褐色砂を多く含む
4. 褐色砂
5. 黒褐色土　　茶褐色砂を含む
6. 暗灰茶褐色土
7. 茶褐色砂
8. 灰褐色土
9. 茶褐色砂
10. 灰褐色土　　茶褐色砂を多く含む
11. 暗灰褐色土　　炭化物と茶褐色砂を多く含む
12. 暗茶褐色砂質土
13. 黄色砂
14. 黄色砂　　薄い茶褐色土層を数枚含む
15. 暗灰褐色土　　砂を多く含む
16. 灰褐色土
17. 暗灰褐色土　　砂を多く含む
18. 黄色砂
19. 灰褐色土　　黄色砂を多く含む
20. 灰褐色土
21. 黄色砂
22. 暗茶褐色土
23. 黄色砂
24. 暗黄褐色砂質土
25. 暗褐色土

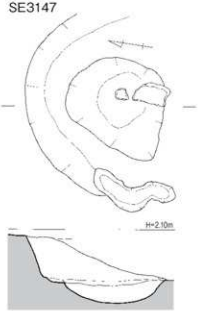
SE2137



SE3148

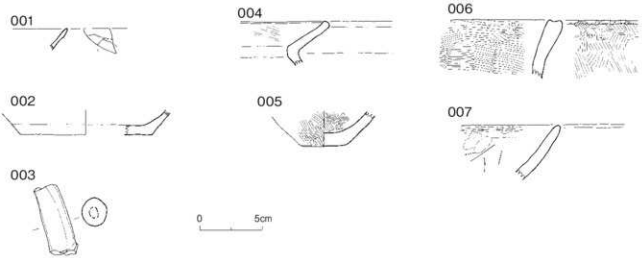


SE3147



0　　1m

第７図　井戸実測図（1/40）



第８図　井戸出土遺物実測図（1/3）

２）土抗

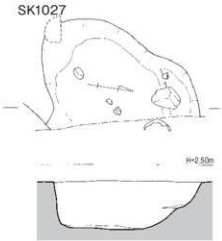
SK1027（第９図）　調査区中央東側の谷部に位置する。Ⅰ区１面の調査で確認した。遺構の東側を1007の水田に切られる。現状で南北1.5ｍ、東西1.2ｍ、検出面からの深さ52cmを測る。断面は逆台形を呈し、北側に底面からの高さ20cmの所に三日月型のテラスを持つ。埋土は灰褐色土である。上層で径30cmほどの角礫が２点と小礫、土器片等が出土した他に埋土中から青磁片、白磁片、陶器片、土師質瓦、須恵器高台付坏、須恵器甕、土師椀が出土した。12世紀頃と思われる。

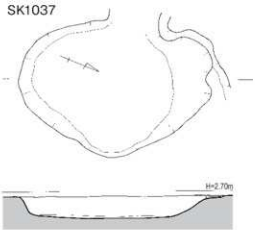
SK1037（第９図）　調査区中央から東寄りの谷中に位置する。Ⅱ区１面の調査で確認した。平面形は楕円形を呈し、主軸はＮ-19°-Ｗを測る。長径203cm、短径144cm、検出面からの深さ23cmを測る。断面は逆台形を呈す。西側へ溝状に出っ張りが見られるが、これは別遺構であるSX1062の一部である。SX1062は敷地境界の植木痕跡で、幅50cm前後の範囲に根痕がみっしりと詰まっていた。1037との切り合いは不明である。埋土は灰黄褐色土で、遺物は出土せず遺構の時期は不明である。

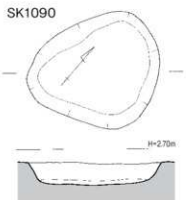
SK1090（第９図）調査区東側の出っ張り部分に位置する。Ⅱ区１面の調査で出土した。平面形は不整楕円形で主軸はＮ-49°-Ｅを測る。長径139cm、短径124cm、検出面からの深さ23cmを測る。断面は浅皿状を呈す。埋土は灰色粗砂で白色粘土ブロックを多く含む。埋土中から須恵器坏蓋（８世紀）、土師質高台付坏（８世紀）が出土した他、須恵器坏（６世紀後半）、須恵器甕、土師器甕（格子タタキ）、壺（古墳時代）などが出土した。北側は包含層の厚さが薄いため、古代までさかのぼる可能性はあるものの、検出面から考えて古代末以降に下る可能性がある。

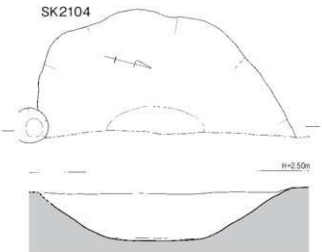
SK2103（第５図）　調査区東側出っ張りの東端に位置する。Ⅱ区２面の調査で出土した。遺構の東側が調査区外に伸びる。現状で南北96cm、東西53cm、検出面からの深さ9cmを測る。堀方断面は浅皿状を呈す。出土遺物（13図011～013）。011は蜻壺である。口径5.1cm、器高8.3cmを測る。黄橙色を呈し、胎土に白色砂を含む。012は手捏ね土器である。口径4.45cm、器高3.4cmを測る。やや灰色かかった黄褐色を呈し、胎土には白色砂を多く含む。013は手捏ね土器である。口縁と底部を欠く。淡橙褐色を呈し、胎土には白色砂と雲母片を含む。

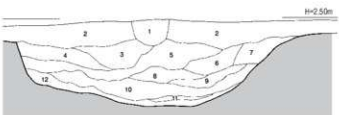
SK2104（第９図）　調査区東側出っ張りの東端に位置する。Ⅱ区２面の調査で出土した。遺構の東側半分が調査区外に延びる。現状で南北270cm、東西128cm、検出面からの深さ50cmを測る。掘方断面は逆台形を呈す。埋土は上層は灰色砂質土、下半は暗灰色砂質土を主とし、水平方向の堆積である。出土遺物（第13図014・015）。014は土製支脚である。土器を支える角状の出っ張り２本のうちの１本と底部の一部を欠く。器高8.3cmを測る。色調は淡赤褐色で胎土中に白色砂を多く含み、5mm以上の小礫も少量含む。調整は全体的にナデを施す。015は須恵器坏蓋と思われる。色調は外面が暗オリー









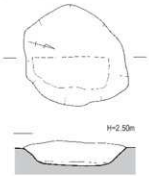


1. 灰褐色土　柱穴掘り込み
2. 暗灰褐色土　粗砂多く含む
3. 灰褐色土
4. 暗灰褐色土　炭化物小片含む
5. 灰色土
6. 暗灰色砂質土　粗砂を多量に含む
7. 灰色砂質土
8. 灰色砂質土　炭化物小片含む
9. 暗灰色土　粘質土粒子を含む
10. 暗灰色砂質土　径3 ～ 5 cmの暗黄褐色土を含む
11. 暗灰色土　炭化物小片含む
12. 灰色粗砂

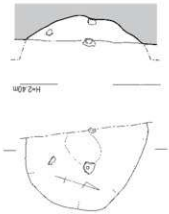
0　1m

第９図　土抗実測図１（1/40）

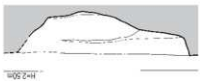
SK2126

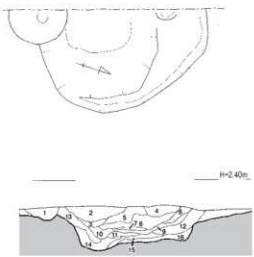


SK3004



SK2134



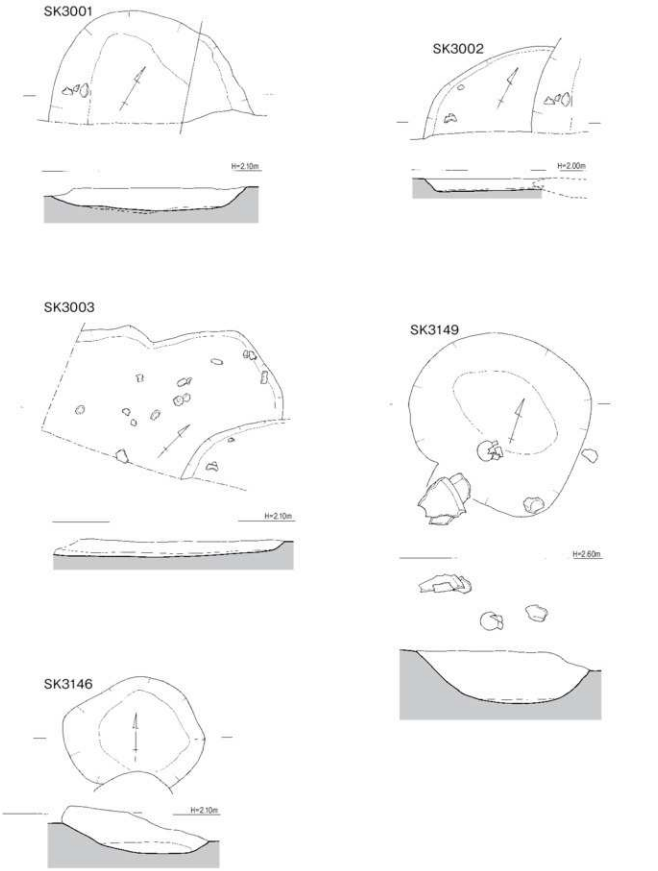


1. 灰色砂質土　　SD1105 埋土
2. 暗灰色砂質土　炭化物小片を少量含む
3. 暗灰色砂質土
4. 灰色砂質土
5. 暗灰褐色粘質土
6. 白色砂
7. 茶褐色砂
8. 暗灰褐色粘質土
9. 灰色砂質土　　黄褐色砂を多く含む
10. 褐色砂　　暗灰褐色土の粒を含む
11. 暗灰褐色粘質土　白色砂を多く含む
12. 白色砂　　暗灰褐色土の粒を含む
13. 白色砂
14. 灰褐色砂質土　白色砂を多く含む
15. 暗灰褐色粘質土
16. 灰色土　　白色砂を多量に含む

1. 茶褐色土　　粗砂・炭化物小片・土器片を少量含む
2. 灰茶褐色砂質土　粗砂多く含む
3. 暗灰褐色砂　　土器小片含む
4. 黒灰色粘質土　粗砂少量含む
5. 灰色粗砂
6. 黒灰褐色粘質土のブロックと暗褐色粗砂がグチャグチャに混じる
7. 暗灰色砂質土
8. 暗灰色砂質土

第 10 図　土抗実測図２（1/40）

0　1m



第 11 図　土抗実測図３（1/40）

プ色で胎土は白色砂を少量含む。外面に魚々子が打たれている。7 世紀から 8 世紀頃と考えられる。

SK2126（第 10 図） 調査区中央北寄りの砂丘端部に位置する。Ⅱ区 2 面の調査で出土した。遺構平面は不整な菱形を呈し、主軸は N - 13° - E である。長径 121㎝、短径 101㎝、検出面からの深さ 27㎝を測る。掘方断面は逆台形を呈す。埋土は灰色を呈す。埋土中から須恵器坏蓋（7 世紀）、須恵器甕、甕（古墳時代と弥生時代後期）などが出土した。7 世紀頃と思われる。

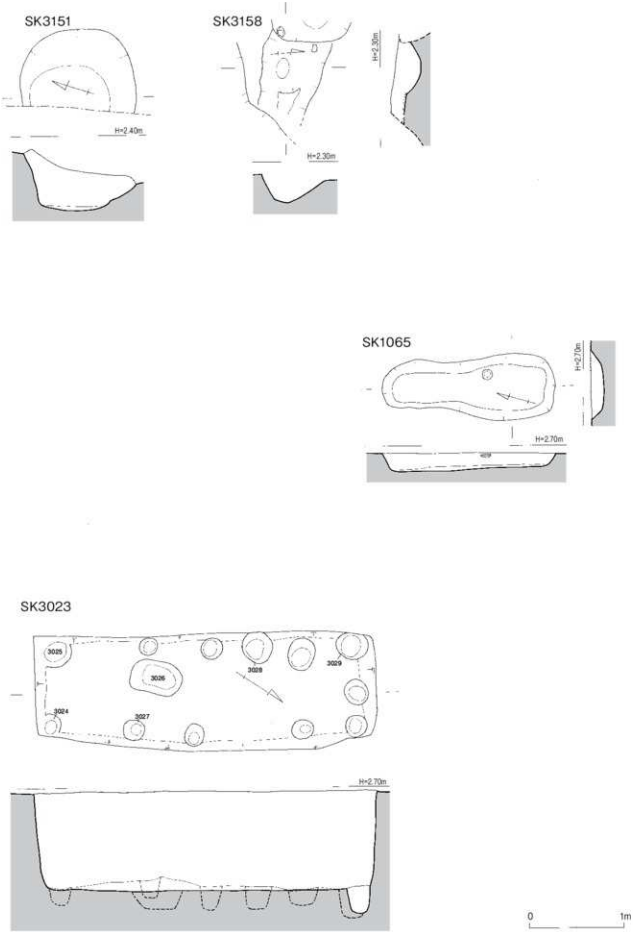
SK2134（第 10 図） 調査区中央の西端に位置する。Ⅱ区 2 面の調査で出土した。遺構の西側半分が調査区外に延び、平面形は不明である。現状で南北 182㎝、東西 110㎝、検出面からの深さ 45㎝を測る。掘方断面は逆台形を呈し、北縁に沿って三日月型のテラスをもつ。埋土は灰色砂質土である。埋土中から須恵器高台付（8 世紀）、須恵器模倣壺（古墳時代後期）などが出土した。8 世紀頃と思われる。

SK3004（第 10 図） 調査区南西端に位置する。Ⅰ区 3 面の調査で出土した。遺構の西側半分が調査区外に延びる。平面形は円形もしくは楕円形と推定される。現状で南北 129㎝、東西 87㎝、検出面からの深さ 41㎝を測る。掘方断面は擂鉢状を呈する。埋土は暗灰褐色砂、黒灰色粘質土を主とし、レンズ状に堆積する。図の第 6 層は黒灰褐色粘質土に暗灰褐色砂がグチャグチャに混じる。滞水して溜まったヘドロに雨水などによって粗砂が流入したものか。出土遺物（第 13 図 024 ～ 026）。024 は土師椀で復元口径 15.8㎝、器高 6.1㎝を測る。色調は淡橙色～ 灰白色を呈す。調整は全体に回転横ナデを施す。胎土は精良である。025 は須恵器坏蓋である。外面は暗赤褐色、内面は暗紫灰色を呈し。外面天井部はカキ目、その他は回転ナデを施す。内面天井部は回転ナデの上から静止ナデを施している。026 は須恵器坏蓋である。ヘラ記号有り。その他に須恵器高台付坏（8 世紀）、須恵器坏蓋（8 世紀前半と 7 世紀）が出土した。時期は 8 世紀前半ごろか。その他古墳時代や弥生時代の土器片も出土した。

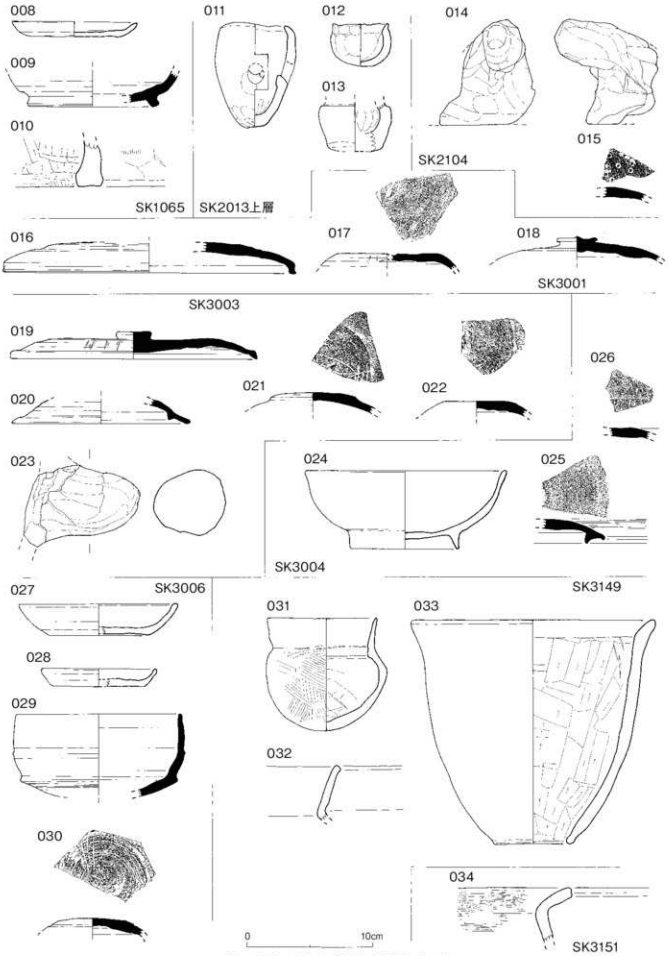
SK3001（第 11 図） 調査区南端に位置する。Ⅰ区 3 面の調査で出土した。遺構の南側半分が調査区外に延びる。現状で南北 118㎝、東西 216㎝、検出面からの深さ 27㎝を測る。掘方断面は浅皿状を呈す。埋土は灰色土である。埋土中から須恵器坏蓋（8 世紀前半と 6 世紀）、須恵器坏（6 世紀）、土師器高台付坏（8 世紀）、須恵器高坏、須恵器甕など古墳時代末から 8 世紀代の遺物が出土している。磁器片が 1 点出土しているが、遺構直上に近世の包含層と水田があるため、それからの紛れ込みの可能性がある。隣接する 3002、3003 の状況からも 8 世紀代の可能性が高いものと思われる。出土遺物（第 13 図 016 ～ 018）。016 ～ 018 は須恵器坏蓋である。016 は大型で復元口径 23㎝を測る。内外面とも淡灰色を呈す。調整は回転ナデで外面天井部は回転ヘラ削りを施す。胎土に 0.5㎜程の白色砂と雲母片、黒色粒を含む。017 は灰色を呈し、天井部にヘラ記号を刻む。018 は薄い摘まみがつき、つまみ径 3.2㎝を測る。内外面とも淡灰色を呈し、天体に回転ナデを施す。胎土は精良である。

SK3002（第 11 図） 調査区南端に位置する。Ⅰ区 3 面の調査で出土した。SK3001 の西側に位置し、遺構の東側を 3001 に切られている。また南側半分は調査区外に延びるため確認できたのは全体の 1/4 程である。現状で東西 1.4 m、南北 0.9 m、検出面からの深さ 13㎝を測る。掘方断面は浅皿状を呈す。埋土は灰色砂質土である。埋土中から須恵器坏（7 ～ 8 世紀）、須恵器高坏、須恵器甕などが出土した。8 世紀頃と思われる。

SK3003（第 11 図） 調査区南端に位置する。Ⅰ区 3 面の調査で出土した。SK3002 の西側に位置し、遺構の東側を 3002 に切られる。遺構の南側と西側は調査区外に延びる。現状で東西 2.5 m、南北 1.5 m、深さ 16㎝を測る。掘方断面は浅皿状を呈す。埋土は黒色土である。出土遺物（第 13 図 019 ～ 023）。019 ～ 022 は須恵器坏蓋である。019 は復元口径 16.4㎝を測る。外面天井部が回転ヘラ削りで、他は回転ナデを施す。色調は灰色であるが、内面は黒色を呈す。硯として使用か。020 は復元公開 14㎝を測る。色調は灰色を呈す。021・022 は外面にヘラ削りを施す。023 は甑取手である。にぶい橙色を

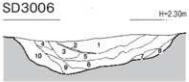


第12図　土抗実測図4（1/40）



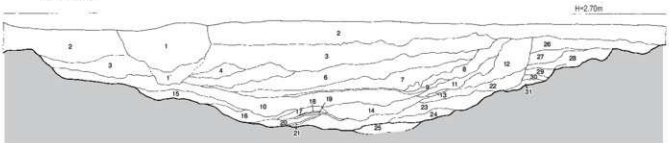
第 13 図　土坑出土遺物実測図（1/3）

SD3006



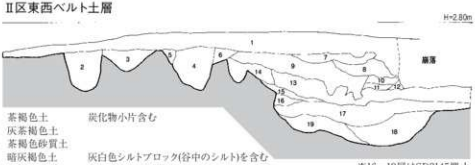
1. 灰色土　茶褐色砂を多く含む
2. 灰色粘質土
3. 灰褐色砂質土
4. 灰色砂質土
5. 暗灰色粘質土
6. 暗灰色粘質土　白色粗砂を多量に含む
7. 灰褐色砂質土
8. 赤黄褐色砂
9. 暗灰色粘質土
10. 灰茶褐色砂

SD3019



1. 灰茶褐色土
2. 茶褐色土　細かな土器片を多く含む。整地層
3. 灰茶褐色砂質土　鉄分沈着してやや茶色味を帯びる
4. 茶灰褐色土
5. 暗褐色土　灰色砂を多く含む
6. 暗茶褐色砂　古墳時代前期の土器を多量に含む
7. 暗黄褐色粘質土
8. 暗灰褐色砂
9. 黄褐色粘質土
10. 暗灰褐色粘質土
11. 黒褐色砂質土
12. 灰茶褐色砂質土
13. 暗黄褐色粘質土
14. 暗褐色粘質土
15. 褐色粗砂
16. 暗茶褐色粘質土　白色細砂を少量含む
17. 茶褐色粘質土　薄い白色細砂層を数枚含む
18. 白色砂
19. 褐色粘質土
20. 白色粗砂
21. 褐色粘質土
22. 黒褐色砂質土
23. 白色粗砂
24. 白色砂
25. 黒色砂
26. 灰茶褐色砂質土
27. 黒褐色砂質土
28. 暗灰茶褐色砂質土
29. 黄褐色砂
30. 暗褐色砂質土
31. 暗褐色砂質土　黄褐色砂を多く含む

Ⅱ区東西ベルト土層

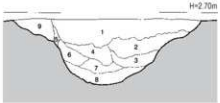


1. 茶褐色土　炭化物小片含む
2. 灰茶褐色土
3. 茶褐色砂質土
4. 暗灰褐色土　灰白色シルトブロック(谷中のシルト)を含む
5. 茶褐色砂質土　黄色砂を多く含む
6. 灰褐色砂質土
7. 茶褐色土
8. 茶灰褐色土
9. 灰褐色砂質土　灰白色シルトの小ブロックを含む
10. 暗褐色土
11. 灰色砂質土
12. 褐色砂
13. 灰白色シルト
14. 暗茶褐色砂質土
15. 暗茶褐色砂
16. 暗褐色砂
17. 茶褐色粗砂　水平方向の堆積
18. 茶褐色粗砂　薄い黒色土層を右下がりのレンズ状に含む
19. 黒色細砂

※16～19層はSD3145埋土

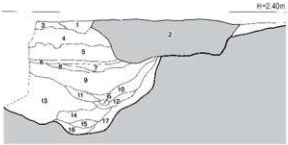
第14図　溝土層図1（1/40）

SD1092



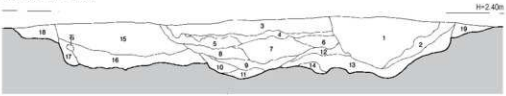
1. 暗茶褐色土　粗砂と土器小片を多く含む
2. 暗茶褐色土　灰色土の小ブロックを多く含む。炭化物小片を少量含む
3. 暗灰色土　暗茶褐色土を少量含む
4. 暗茶褐色土　灰色土の小ブロックを少量含む
5. 明褐色粗砂
6. 暗茶褐色土　明褐色粗砂を右下りの層状に含む
7. 暗茶褐色土　白色粗砂を少量含む
8. 黒褐色粘質土
9. 暗茶褐色土

SD3021



1. SD2106 埋土
2. SD1092 埋土
3. 灰色土
4. 暗灰色砂質土
5. 暗黄白色粘質土
6. 灰色粘質土
7. 灰色粘質土　白色砂を多く含む
8. 白色砂を主とし灰色土を含む
9. 灰色シルト　所々ブロック状に粗砂を含む　木質を少量含む
10. 灰色砂質土　黄色砂を多く含む
11. 白色粗砂　砂は径5mm程灰色土を含む
12. 灰色粘質土
13. 白色砂　砂の径は上層が1mm、下層は8mmで右下がりの堆積
14. 暗灰色粘質土　白色細砂を少量含む
15. 茶褐色砂
16. 褐色粗砂　灰色土をわずかに含む
17. 灰色土　茶褐色砂を多量に含む

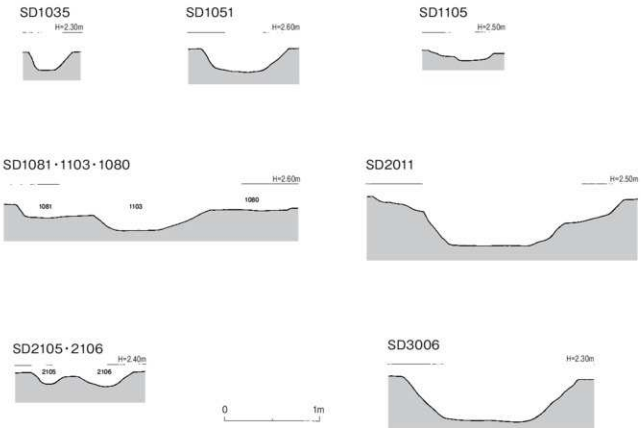
SD1092、2128



1. 灰茶褐色土　SE2137 掘方埋土
2. 灰色シルト
3. 灰褐色砂質土
4. 黒灰褐色砂質土
5. 暗褐色シルト　水性堆積
6. 暗灰褐色土　茶褐色砂質土のブロックを含む
7. 褐色粗砂と黄白色砂の互層　1層の厚さは1cm以下
8. 暗灰褐色土
9. 褐色シルト　白色細砂を多く含む
10. 暗灰色細砂
11. 黒褐色土　ドベ
12. 灰色シルト
13. 黒灰褐色粘質土　炭化物小片含む
14. 黒褐色粗砂
15. 暗茶褐色砂質土　暗黄褐色砂と黒褐色砂を多く含む
16. 黒色砂
17. 黒色砂　黄色砂を少量含む
18. 灰褐色砂質土　黄色砂を多く含む
19. 暗灰褐色砂

第15図　溝土層図2（1/40）

0　1m



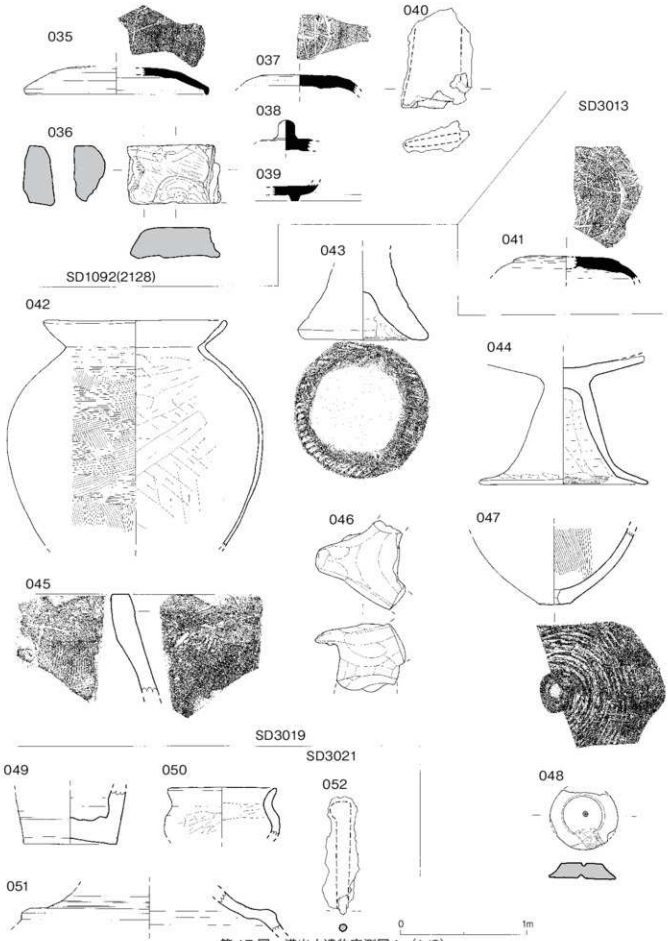
第 16 図　溝断面図 1（1/40）

呈す。その他に須恵器坏、須恵器甕などが出土している。遺構の時期は 8 世紀頃と思われる。

SK3146（第 11 図）　調査区北端の砂丘上に位置する。Ⅱ区 2 面の調査で出土した。遺構の東側上半を削平されており、平面形はいびつである。現状で東西 150cm、南北 118cm、検出面からの深さ 48cm を測る。掘方断面は逆台形である。埋土は黒褐色土である。埋土中から甕（古墳時代前期）、壺（弥生時代後期前半）、高坏等が出土した。古墳時代前期頃と思われる。

SK3149（第 11 図）　調査区北端の砂丘上に位置する。1 面から 2 面目の掘り下げ中に甑が出土し、その後砂丘面まで下げたところ、土坑の掘り込みを確認した。平面形は楕円形を呈し、主軸は N - 78 ° - W を測る。長径 94cm、短径 87cm、砂丘面からの深さ 26cm を測る。甑と土師壺の出土位置から本来は 70cm ほどの深さがあったと考えられる。掘方断面は逆台形を呈す。埋土は暗茶褐色砂である。出土遺物（第 13 図 031 ～ 033）。031 は土師器壺である。口径 9.6cm、器高 8.9cm を測る。内外面ともにぶい赤褐色を呈す。調整は外面口縁部が横ナデ、胴部がハケ、内面は口縁が横ナデ、胴部上半はナデ、下半はヘラ削りである。0.5 ～ 1 mm の白色砂と雲母片を少量含む。032 は土師器甕口縁である。橙色を呈す。033 は甑である。復元口径 17.2cm、器高 17.6cm を測る。色調は外面がにぶい橙色で上半部に黒斑がある。内面は橙色を呈す。調整は口縁部は内外面とも横ナデ、その他は外面が縦ナデ、内面は縦方向のケズリを施す。古墳時代前期末頃か。

SK3151（第 12 図）　調査区北西端の砂丘上に位置する。Ⅱ区 2 面の調査で出土した。遺構の西側半分が調査区外に延びる。現状で南北 120cm、東西 81cm、検出面からの深さ 62cm を測る。掘方断面は逆台形を呈す。埋土は暗茶褐色砂である。出土遺物（第 13 図 034）は弥生時代後期の甕口縁である。外面はにぶい黄橙色、内面はにぶい橙色を呈す。胎土は白色砂と赤色粒、雲母片を少量含む。その他に弥生時代後期後半の壺、高坏が出土した。弥生時代後期末に属する可能性がある。



第 17 図　溝出土遺物実測図 1　(1/3)

SK3158（第12図） 調査区北端の砂丘上に位置する。Ⅱ区2面の調査で検出した。SK3149と東側の谷を結ぶ溝状の遺構である。西端をSK3149、東端を谷（SX3156）に切られ、現序で東西1.2ｍ、幅67cm 、検出面からの深さ13cmを測る。3149に接した部分が深くなっており、深さ29cmを測る。埋土は暗茶褐色砂である。遺物は古墳時代前期の壺片が出土した。

SK1065（第12図） 調査区の中央部に位置する。Ⅱ区1面で検出した。生け垣の痕跡であるSX1062と重なっており、遺構の遺存状態は不良である。遺構平面は溝状を呈し、主軸はN - 16° - Eを測る。長径183cm、短径69cm、検出面からの深さ18cmを測る。長軸側の掘方断面は浅皿状、短軸側の断面は逆台形を呈す。底面から10cmほど浮いた状態で完形の土師皿が1枚出土した。埋土は黄褐色砂質土である。出土遺物（第14図008～010）。008は土師皿で径9.8cm、器高1.2cmを測る。底部はヘラ切りで切り離し後ナデでおり、後は内外面とも回転ナデを施す。009は須恵器高台付き坏で復元底径10.2cmを測る。外面はにぶい黄橙色、内面は灰白色を呈す。調整は全体に回転ナデを施す。胎土は0.5mm程の白色砂と黒色粒を少量含む。010は移動式竈と思われる。色調は内外面ともにぶい黄橙色を呈し、調整は外面がハケ後ナデ、内面は下端がハケ後ナデ、上はヘラ削りである。この他に土師坏（ヘラ切り）、土師碗、須恵器坏蓋などの遺物が出土した。土壙墓の可能性があり、時代は11 世紀前後と考えられる。

SK3023（第12図） 調査区南端近くに位置する。Ⅰ区1面で検出したがガラス瓶などが出土したため上場の実測だけ行い、第3面の調査時に底面まで掘り下げた。遺構は長方形を呈し、主軸はN - 33 ° - Wを測る。長径362cm、短径124cm、第1面の検出面から底面までの深さ103cmを測る。壁面に沿って径18 ～ 35cm、深さ18 ～ 29cmの柱穴が並ぶ。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、掘方断面は箱形を呈す。遺物はガラス瓶の破片などが出土した。道路を挟んで西側80ｍに位置する第11次調査で同様の遺構が出土したが、元地主の方に「戦時中に防空壕があって、戦後も入ることができた」と伺ったのでこのSK3023も同様に防空壕であった可能性が高い。

3）溝

SD1092（第15図） 調査区中央部の西寄りに位置する。Ⅱ区1面で検出した。調査西縁から出てやや屈曲して東南方向に続いて調査区を横断する。Ⅱ区では砂丘を切るため検出できたが、先に調査したⅠ区1面では一部輪郭を検出したのみで溝とは気がつかず掘り下げていない。2面目では溝に気がつきSD2011として掘り下げたものの、土層図の2・3層の一部にとどまっており全体を確認することはできなかった。埋土中から龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ類、青磁瓶などが出土した。13世紀頃と思われる。

SD1035（第16図） 調査区の南東隅に位置する。Ⅰ区1面で検出した。南東隅は北西側より一段低く、近世～近代の埋め土を除去したところ。近世～近代と思われる水田（1007）を確認した。SD1035は1007の耕作土と床土を取り除いた下で検出した。主軸をN - 18° - Eにとる。調査区内での長さ5.6ｍ、幅38 ～ 52cm、深さ20cmを測る。堀方断面は逆台形を呈す。遺物は出土していない。

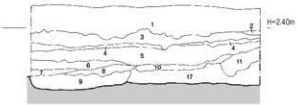
SD1051（第16図） 調査区西側で検出した。Ⅱ区では1面で検出したが、Ⅰ区では2面目で検出している。調査区南西端から北側に延びる。この時点の主軸はN - 16° - Eを測る、南西端から11mのところで西北へ向きを変え主軸をN - 37° - Wにとる。西北へ8ｍ直進したところで緩やかに弧を描きながら調査区外にでる。調査区内での長さ23.5ｍ、幅70 ～ 90cm、深さ22 ～ 35cmを測る。溝断面は逆台形を呈す。出土遺物は龍泉窯系青磁碗Ⅱ類などである。13世紀頃と思われる。

SD1086（第16図） 調査区南西部に位置する溝でSD1051の西側に沿って巡る。溝中央をSD1103に切られる。SD1051とは南側では接しているが、南端から6ｍ程で1051から離れ、最大で60cm程

3144

1. 灰褐色砂質土
2. 灰茶褐色土
3. 灰褐色土
4. 茶褐色土
5. 灰褐色土　　黄褐色砂を多く含む
6. 灰褐色砂
7. 茶褐色土
8. 灰褐色土
9. 黄褐色砂　　灰色土を含む
10. 暗黄褐色砂
11. 灰褐色粘質土
12. 茶灰褐色砂質土
13. 灰茶褐色土
14. 灰褐色土　　炭化物小片と黄色砂を多く含む。
15. 暗灰褐色土　炭化物を多く含む

Ⅰ区南壁西端土層

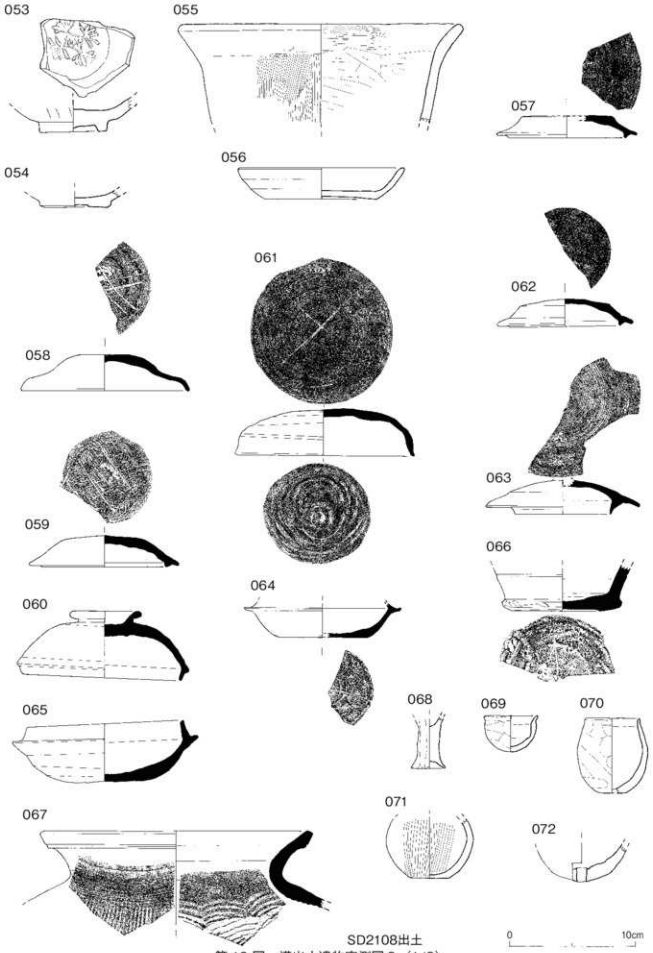


1. 茶褐色土　　灰色土(耕作土ブロック)を含む　近世から近代の埋め立て土
2. 暗灰褐色土　炭化物多く含む
3. 灰色土　　耕作土　近世以降
4. 黄褐色粘土　水田床土
5. 黄灰褐色粘質土 粗砂を少量と土器片を多く含む
6. 黒灰褐色砂質土
7. 黒灰褐色粘質土
8. 灰白色粗砂
9. 暗灰色砂質土　SK3002 埋土
10. 灰茶褐色土
11. 茶褐色砂質土　土器小片含む
12. 暗灰色砂質土　SK3003 埋土

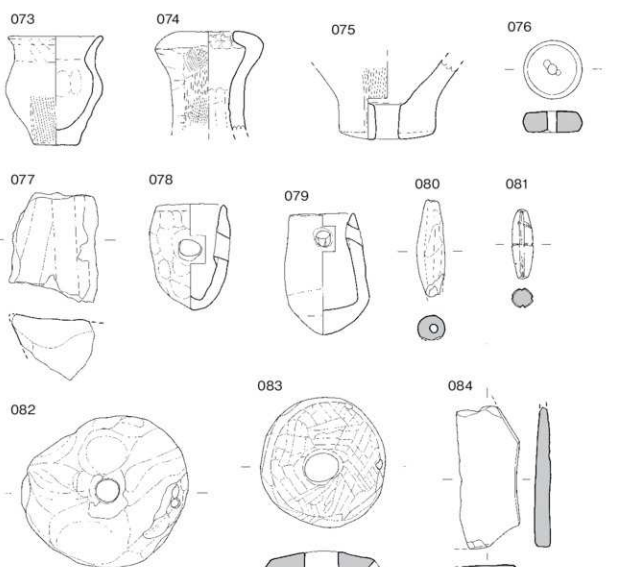
6・7 層は谷全体に広がる整地層で古墳時代から古代の遺物を多量に含む

0　1m

第 18 図　溝土層図３（1/40）



第 19 図　溝出土遺物実測図 2（1/3）

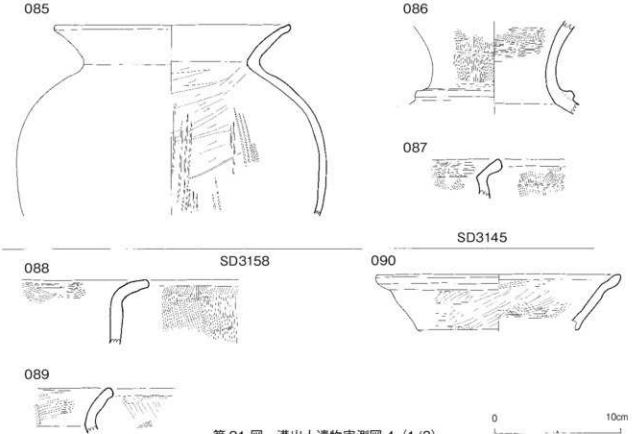


第 20 図　溝出土遺物実測図３（1/3）

の距離があく。接した部分では 1086 と 1051 の両方を SD1103 が切っているため、1086 と 1051 の直接の切り合いはない。調査区内での長さは 18m 前後、幅 1.5 ～ 2 m、深さ 4 ～ 10cm前後を測る。溝断面は浅皿状を呈す。第 16 図で中央が逆台形に窪んでいるのは SD1103 である。遺構の掘り下げは２面で行ったが、Ⅰ・Ⅱ区とも１面調査時に掘方の痕跡を検出しているため、本来は１面から掘り込んでいたものである。SD1105 は同じ溝である。断面では 1086 に比べて浅く、北側から南側に向かって深くなっている。出土遺物（第 17 図 035・036）。035 は須恵器坏蓋で復元口径 14.4cmを測る。灰色を呈す。外面天井部にヘラ記号がある。036 は滑石片である。石鍋からの再加工中か。7.4 × 4.7 × 2.4cmを測る。

SD1103（第 16 図）　SD1081 の中央を流れる溝で、1081 が埋没後に掘り直された溝と思われる。幅は 40 ～ 120cm 、深さ 6 ～ 13cm前後を測る。溝断面は浅皿状を呈す。龍泉窯系青磁碗の小片が出土した。

SD2011（第 16 図）　調査区中央部東縁に位置する。Ⅱ区２面で検出した。東端では幅 2.6 m を測るが、すぐに北西側に屈曲して主軸を N - 53° - W にとる。Ⅱ区で検出した 1092・2106 とは幅と深さが異な



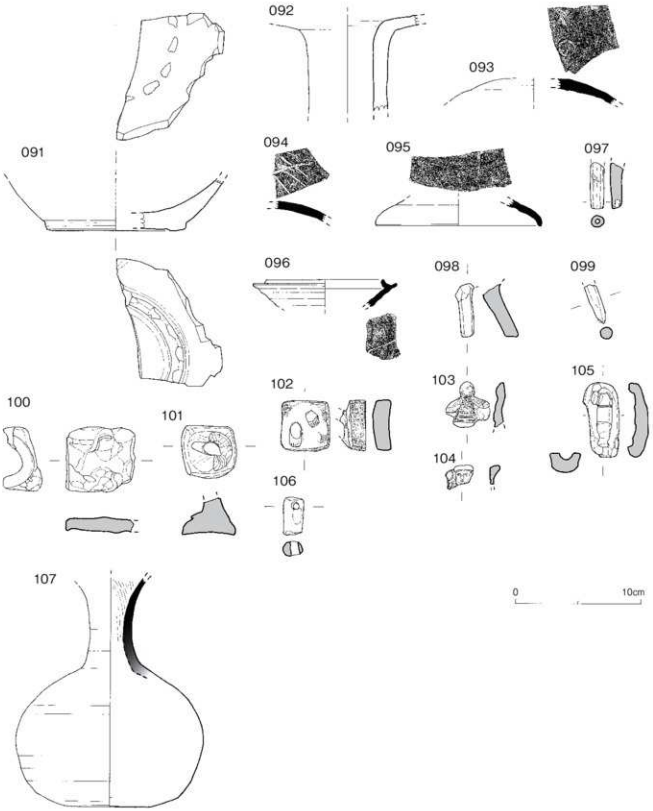
第21図　溝出土遺物実測図４（1/3）

るが、谷の堆積の中で1092と2106の一部のみ掘り下げたもので第15図にある1092の土層図の２・３層にあたるものと思われる。断面は逆台形を呈す。

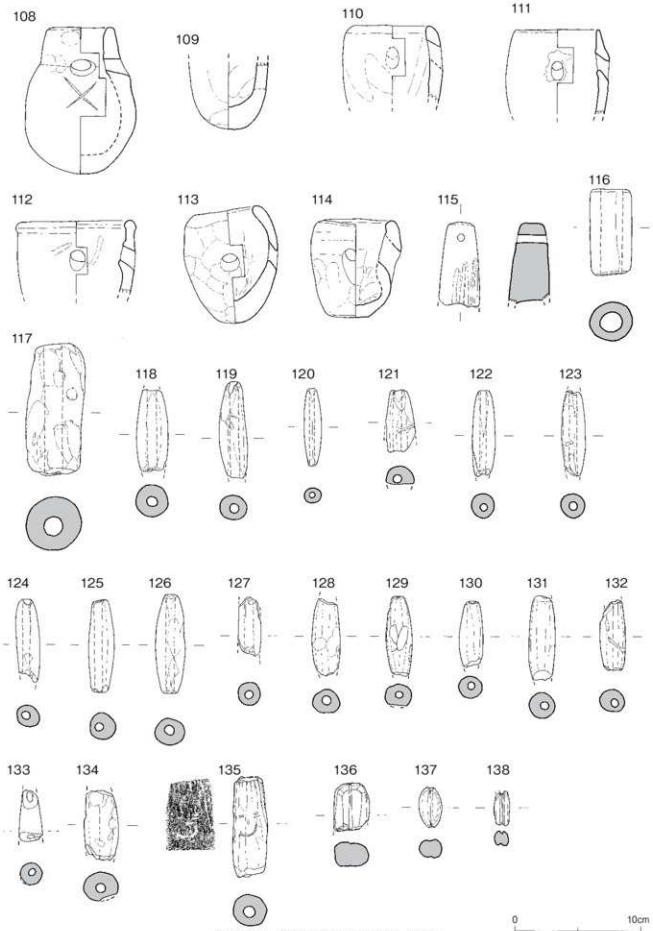
SD2105（第16図）　調査区中央部に位置する溝で主軸をN - 50° - Wにとる。Ⅰ区では検出できなかったが、立ち上がっていた可能性もある。検出した範囲で長さ3.5 m、幅31～39㎝、深さ7㎝を測る。溝断面は逆台形を呈す。遺物は青磁片、白磁片、陶器片、土師坏（糸切り）、土師皿（灯明皿として使用）が出土した。古代末から中世初頭と思われる。その他に須恵器甕、須恵器小碗、須恵器坏蓋（８世紀と６世紀）、須恵器坏（８世紀）など古代の他に古墳時代や弥生時代中～後期の土器片も出土した。

SD2106（第16図）　調査区中央に位置し、SD2105に沿って蛇行しながら北西側に延びる。主軸はSD1092を切るが、土色が似ており、西側端部は不明である。2105と似た位置で消失したので立ち上がった可能性がある。確認できた範囲で長さ5.5 m、幅41～57㎝、深さ8～14㎝を測る。遺物は白磁碗、白釉陶器片、陶器片、土師坏（糸切り）、土師皿（灯明皿）が出土した。貿易陶磁器が小片で詳細な時期は不明であるが、古代末から中世初頭頃と思われる。遺物はその他に須恵器坏蓋（８世紀と６世紀）、須恵器碗などの古代の他に古墳時代後期の須恵器模倣土師器甕や弥生時代後期の壺、土錘（小片２点）などが出土した。

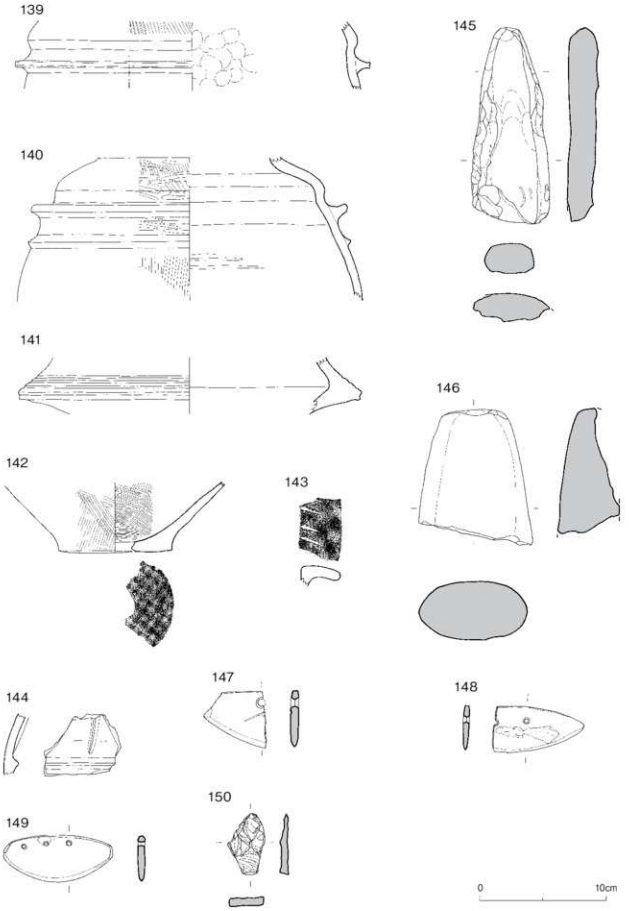
SD2128（第15図）　調査区の中央部に位置する。SD1092に切られながら並行する。2128が埋没した後に掘り直したのが1092である。Ⅰ区では検出できてないが、SD2011と同一の溝と考えられるので、調査区を横断するものと考えられる。幅2.2～2.9m、深さ30㎝を測る。遺物は龍泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ類や白磁碗Ⅳ類、褐釉陶器瓶、陶器擂鉢、陶器水柱が出土した。陶器擂鉢は小片であるが、近世まで降る可能性がある。その他の陶磁器は11世紀後半～13世紀前半が多い。その他に土師坏(糸切り)、土師皿（糸切り）、６～８世紀の須恵器、黒色土器Ｂ類椀、甑、古墳時代前期の土器（椀、甕、高坏）、弥生時代中期～後期の土器（壺、器台、甕棺）など多種の遺物が出土した。遺物実測図（第17図



第 22 図　1007 出土遺物実測図（1/3）



第 23 図　漁労関係遺物実測図（1/3）



第 24 図　弥生時代遺物実測図（1/3）

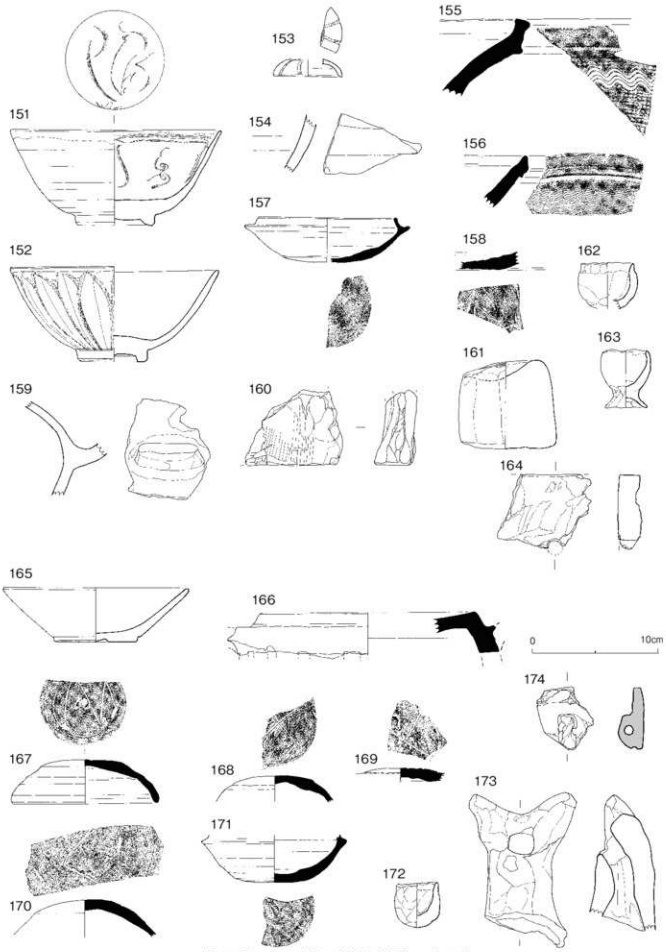
037 ～ 040）の 037・038 は須恵器坏蓋である。027 は外面にヘラ記号を施す。028 はつまみがつく。039 は須恵器高台付坏である。040 は鉄片である。7.8 × 5.5 × 2.4cmを測る。図面左側が刃部であろうか。

SD3006（第 14 図） 調査区南側に位置する。Ⅰ区 3 面で検出した。調査区の南西端から北側に延びるが、西側に緩やかにカーブを描きながら約 10 m程で立ち上がる。2 面目で検出した SD1103 と重なるが。1103 より幅が広い。最大幅 174cm、検出面からの深さ 35cmを測る。埋土はレンズ状の堆積で灰～暗灰褐色粘質土を主とし、間に砂層を挟む。普段は少し滞水しているところに時々水が流れて砂が流入したものであろうか。埋土中から龍泉窯系青磁碗や白磁皿（11 ～ 12 世紀）、土師椀、土師坏、土師皿が出土した。12 世紀後半頃と思われる。出土遺物（第 13 図 027 ～ 030）。027 は糸切りの土師坏である。復元口径 12.6cm、器高 2.5cmを測る。全体に回転ナデを施す。にぶい黄橙色を呈す。028 は糸切りの土師皿である。復元口径 9cm。器高 1.4cmを測る。にぶい黄橙色を呈し、白色砂と雲母片を少量含む。029 は須恵器高坏である。復元口径 13cmを測る。灰色を呈す。030 は須恵器坏蓋である。外面にヘラ記号を施す。遺物はその他に須恵器坏蓋、須恵器坏、須恵器高台付坏などの 6 ～ 8 世紀の土器や弥生時代中期から古墳時代にかけての土器、棒状土製品、鉄滓など多種の遺物が出土している。

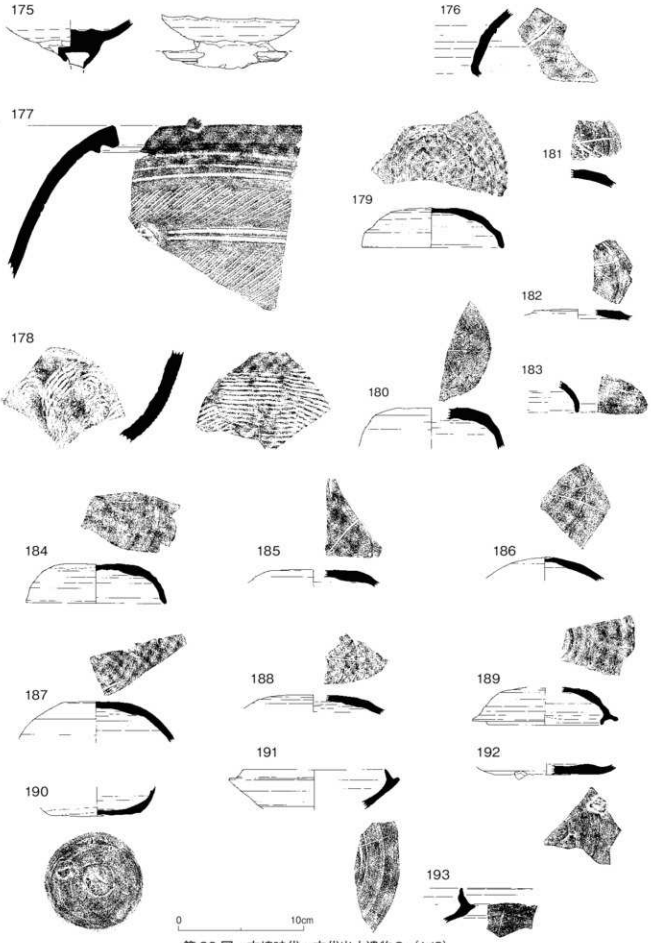
SD3019（第 14 図） 調査区中央の西縁に位置し、調査区中央で立ち上がる。Ⅰ区 3 面目で検出した。調査区西壁で幅 5.3 m、深さ 90cmを測る。断面は浅皿状を呈す。褐色～暗褐色粘質土を主とし、褐色や黒色、白色砂などの砂層を挟む。最下層は若干滞水していた可能性がある。砂層は流水による流れ込みと壁面の崩落によるものと思われる。遺物は龍泉窯系青磁皿や白磁碗、土師椀、滑石片、鉄滓などが出土した。いずれも小片である。12 ～ 13 世紀頃と思われる。出土遺物（第 17 図 042 ～ 048）。042 は土師器甕である。復元口径 14.4cmを測る。内外面ともにぶい黄橙色を呈す。調整は口縁は内外とも横ナデで、その他は外面上半が縦ハケ後横ハケ、下半は縦ハケである。内面はヘラケズリを施す。043 は脚部である。底径 10.2cmを測る。色調はにぶい黄橙色を呈し、調整は外面がナデ、内面は横ナデとユビナデを施す。044 は土師器高坏である。底径 13.2cmを測る。色調は内外面とも橙色～ 褐灰色で調整は外面全体に横ナデ、脚部内面は横方向のヘラケズリを施す。底部に刻み目のような凹みがある。045 は内外面とも橙色を呈す。調整は外面端部がナデ、その他には細かな格子タタキを施す。内面は端から 3.5cmがヘラケズリ、その下側はハケを施す。瓦に似るが、内面側の調整や形が他の瓦とは異なる。046 は支脚である。脚の大半と角部分を欠損する。047 は甑である。底部は小さく径 3.3cmを測り、焼成前に孔を穿つ。色調は黄赤褐色～淡灰褐色を呈す。調整は外面がタタキ、内面は縦ハケで孔の周囲はヘラケズリを施す。048 は滑石製紡錘車の未製品で、両側から穿孔中である。径 5.3cm、高さ 1.2cmを測る。その他に 6 ～ 8 世紀の須恵器坏蓋や須恵器高台付坏、古墳時代の甕、高坏、器台、小型丸底壺、甑や弥生時代の小型鉢、袋状口縁壺などが出土した。

SD3021（第 6 図） 調査区北東端に位置し、自然流路もしくは谷の可能性がある。遺構の東側は調査区外に伸びており、調査区内では幅 3 m、深さは 50cmを測る。埋土は褐灰色粗砂である。出土遺物（第 17 図 049 ～ 052）。049 は陶器瓶底部である。復元底径 7.4cmを測る。外面は灰色、内面は赤褐色を呈し、胎土には白色砂と黒色粒を少量含む。050 は土師器小型壺で復元口径 8.6cmを測る。内外面ともにぶい橙色を呈し、胎土は 0.5㎜程の白色砂と赤色粒と雲母片を少量含む。051 は土師質で器台の脚部かなにかと思われる。色調は内外面とも浅黄橙色を呈し、胎土には 1 ㎜程の白色砂と赤色粒、雲母片を少量含む。調整は全体に回転ナデを施す。052 は鉄釘である。先端を欠く。遺存長 9.3cm を測る。

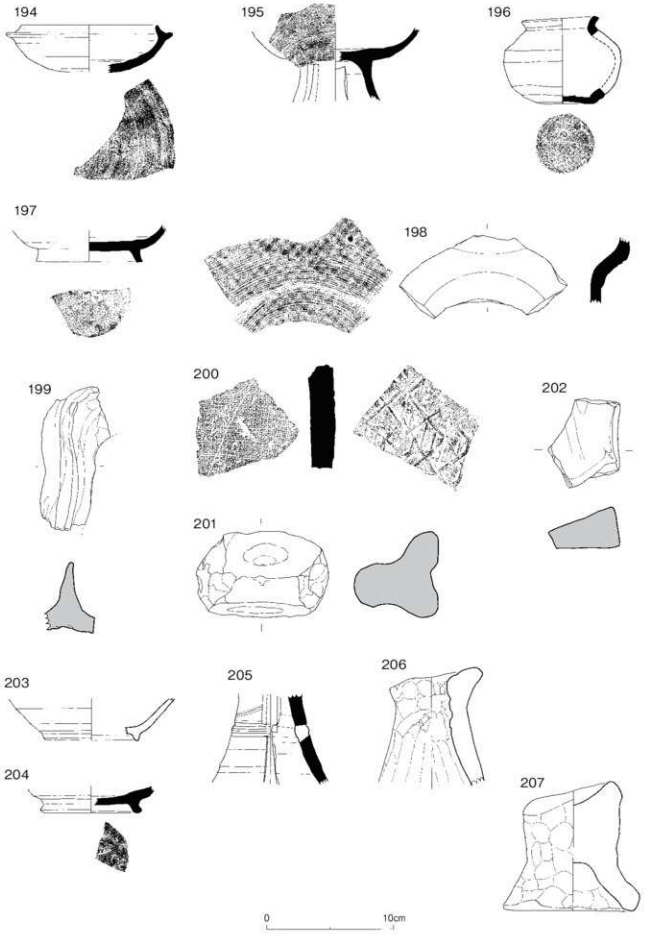
SD3145（第 14 図） 調査区北東端部に位置する。Ⅱ区 2 面で検出した。砂丘の東端をかすめながら南北方向に蛇行する溝である。土層図は第 14 図に載せたⅡ区東西ベルト図の 16 ～ 19 層が 3145 にあたる。東西ベルトから北側で長さ 7 m、最大幅 2 m、深さ 50cmを測る。埋土は粗砂を主とする。べ



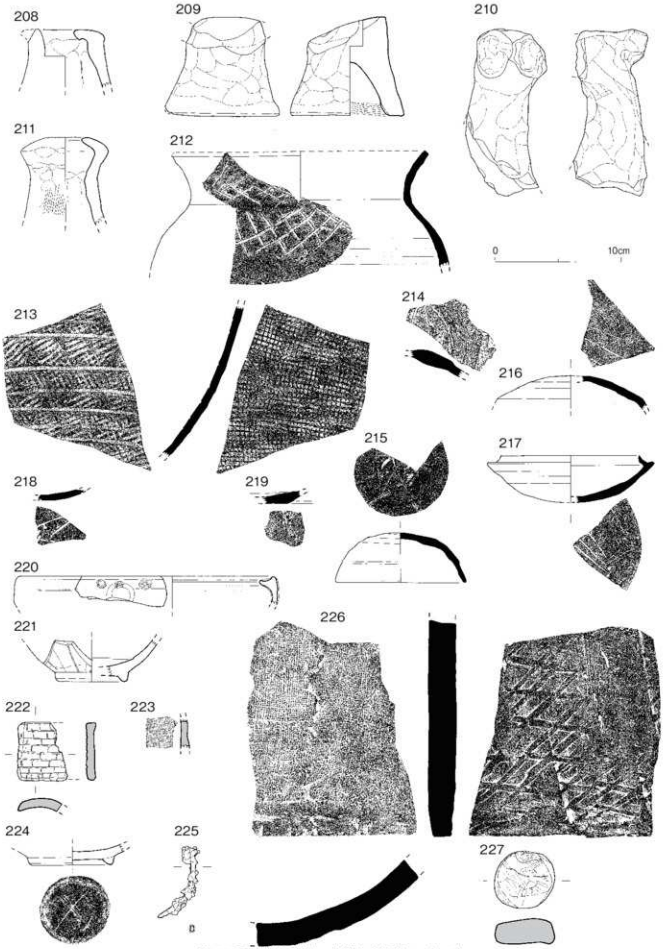
第 25 図　古墳時代～古代出土遺物 1（1/3）



第26図　古墳時代～古代出土遺物2（1/3）



第 27 図　古墳時代～古代出土遺物３（1/3）



第28図　古墳時代～古代出土遺物4（1/3）

ルトから南は３面の調査で確認したところ、砂丘の際をかすめながら南下し、3033 に合流する。出土遺物（第 21 図 085 ～ 087）。085 は土師器甕である。復元口径 18.6cmを測り、口縁は横ナデ、内面胴部はハケ後ヘラケズリを施す。外面胴部はヘラナデで煤が付着する。086 は弥生時代の壺、087 は弥生時代中期の甕である。遺物は古墳時代前期の高坏が出土した他、弥生時代中期～ 後期にかけての壺や甕が出土した。古墳時代前期と考えられる。

SD3156（第５図） 調査区北端の SE3147 内に位置する。長さ 90cm、幅 24cm、深さ８cmを測る。出土遺物（第 21 図 088 ～ 090）。088・089 は甕口縁、090 は高坏で復元口径 19.4cmを測る。弥生時代後期か。

4）谷

SX3144（第18図） 調査区北側の砂丘上で東側に解析する谷もしくは溝である。中央に南北方向のベルトを残し東側を2108としたが、同一の谷である。南北4.5m、東西７mで東端はSD3145までのびる。埋土は上層は灰褐色土、下層は灰褐色砂質土と黄褐色砂を主とするレンズ状の堆積である。遺物は龍泉窯系青磁碗の他に須恵器坏蓋（8世紀、6世紀前半）、須恵器提瓶、須恵器甕などが出土した。12～13世紀頃の埋没である。出土遺物（第19・20 053～84）。053は龍泉窯系青磁碗である。上層出土で他の遺構から紛れ込んだ可能性がある。055は土師器甕である。復元口径22.4cmで橙色を呈す。056は糸切りの土師坏で復元口径13cm、器高2.5cmを測る。057～063は須恵器坏蓋である。060を除いて外面にヘラ記号を施す。064・065は須恵器付きである。066は須恵器底部で復元底径9.4cmを測る。068は脚で復元底径2.6cmを測る。明赤褐色を呈し、細砂を少量含む。069は小型鉢で復元口径4.2cm、器高2.85cmを測る。口縁はナデ、その他はヘラナデを施す。070は小型甕で復元口径4.4cm、器高5.9cmを測る。明赤褐色を呈す。071は小型壺で復元底径4.7cmを測る。072は底部に穿孔がある。赤褐色を呈す。073は壺である。074は器台、075は上下の判別がつけにくいが底部に穿孔を施す。076は土製紡錘車で45.7gを測る。077は不明土製品である。移動式竈に似るが、断定できない。078・079は蛸壺。080は土錘で下端を欠く。081～083は滑石製石錘で081は18.66g、082は1480g、083は531gを測る。084は砂岩製砥石で３面を砥面とする。その他弥生時代～古墳時代にかけての土器が多く出土した。遺物としては弥生時代後期の遺物が多い。また、各時期通して甕の破片が多く出土した。

5）水田

SX1077（第 18 図） 調査区南端で検出した。西側に隣接する１次調査でも確認されており、近世以降とされている。今回の調査でも耕作土下の床土から近世から近代の磁器碗、磁器小碗、黒色磁器碗が出土した。その他には龍泉窯系の細形連弁青磁碗（13 ～ 14 世紀）や坩堝、鉄滓、また耕作土下の茶褐色包含層からは羽口が出土しており、時期は古代（６～８世紀）か中世（11 ～ 13 世紀）と思われるが、製鉄関連の遺構が存在したことが判る。出土遺物（第 22 図 091 ～ 107）091 は越州窯系青磁碗である。092 は土師質器台、093 ～ 096 は須恵器坏蓋と坏でヘラ記号がある。097 ～ 099 は土製脚、100 ～ 104 は土製の人形、105 は土製鋳型、106 は土錘か。107 は須恵器長頸壺である。

6）動物遺存体 ２点出土した。

1007（水田）からイルカ類の腰椎が１点出土した。横突起は途中から棘突起は根元に近い部分で折れているが刃物を使用した痕跡はなく、その他の部分にも解体痕や焦げはみられない。前後の関節面の癒合は終了している。関節面の径が 3.8cmと小型である。SD2108 上層でウマの歯が１点出土した。遺

存状態が悪く、細片化したため計測できない。

7）その他の遺物

第23図108～138は漁撈具である。108～114は素焼きの飯蛸壺である。115は土製で遺存長6.7cm、径3.2cmを測る。側面にミガキを施す。端部に径5㎜の孔を穿つ。錘であろうか。116～135は土錘である。135は側面に線刻と思われる凹みがある。136～138は石錘である。いずれも長軸方向の中心に溝を刻む。第24図139～150は弥生時代の遺物である。今回の調査では弥生時代の明確な遺構は確認できなかった。139・140は甕型土器の肩部である。141は2重口縁壺の口縁部、142は甕底部で底部中央に焼成後の穿孔がみられる。143は中期の甕口縁で口縁上面に線刻を施す。144は弥生中期の壺頸部で赤色顔料を塗布する。145・146は磨製石斧、147～149は石包丁である。砂丘上の集落であるが後背湿地などで稲作を行ったのであろうか。150は黒曜石剥片である。25図151～164はⅠ区1～2面掘り下げ時に出土した。153は白磁蓋、154は黒釉陶器片である。155～158は須恵器で159は土師質の壺で取手がつく。160は移動式竈片、161は土師質の器台か。162・163はミニチュア土器である。165～173はⅠ区2～3面掘り下げ時に出土した。165は越州窯系青磁碗である。166は須恵器円面硯である。167～171は須恵器坏蓋と坏でヘラ記号を施す。172はミニチュアの甕、174は滑石製品である。173は土製支脚である。26図175～27図202はⅡ区1～2面掘り下げ時に出土した。175は須恵質坏で大型装飾器台の口縁に貼り付けたものである。坏の径は11cmを越える。179～194は須恵質の坏蓋と坏でヘラ記号を施す。198は須恵器提瓶か。199は移動式竈片、200は須恵質瓦である。201は砂岩製で用途不明である。202は砥石で3面を砥面とする。203～207Ⅱ区1面から出土した。203は緑釉の椀、204は須恵器高台付坏で底面にヘラ記号あり。205は須恵高坏、206～211は土製の器台、212は須恵器壺で側面に線刻を施す。214～219は須恵器坏蓋と坏でヘラ記号を施す。220は龍泉窯系青磁鉢、221は白磁碗である。222は土製品で煉瓦状の線刻を施す。ミニチュアの石垣か。223は土製品で内面に布圧痕がつく。人形等の一部か。224は土師椀、225は鉄釘である。226は須恵質平瓦である。227は滑石製円盤である。紡錘車の未製品か。

4　小結

発掘調査では弥生時代中期以降の遺物が多量に出土したが弥生時代の確実な遺構は確認できなかった。遺構は砂丘上で出土した土抗SK3149と井戸2基が古墳時代まで遡る可能性がある。SK3149は完形に近い土器を伴うが、井戸2基に関しては小片が数点のみであることから、断定しがたい。古墳時代後期遺構から8世紀に関しては土抗数基を検出した。この時期の遺物は多く出土しており、特に図26の175は大型装飾器台の一部で、古墳の副葬品である。北側の丘陵上に古墳が存在した可能性がある。古代の遺物では図25－166に記載した大型の須恵器円面硯と図27－203の緑釉椀は寺院もしくは官衙での出土が多いため、本調査区周辺に古代寺院もしくは官衙が存在した可能性を示すものである。12世紀前後になると井戸や溝、土壙墓等が築かれる。溝は砂丘上からの排水もしくは区画溝と思われる。SD1051や1103等の溝数条は弧を描き、なにかを取り囲むようである。調査区は北端の砂丘上と南側の谷部に別れるが、谷部には茶褐色包含層が厚さ30cmほど堆積している。茶褐色土上面で11～12世紀頃の土壙墓があり、それまでには堆積したことがわかる。茶褐色土より下層で検出した遺構は1面目で見逃した可能性が有り、堆積した時期に関しては断定しづらい。茶褐色土はほとんど混じりけがなく博多遺跡などで見られる盛り土等とは全く異なる。砂丘上などでみられる茶褐色土に色が似ており、砂丘上から流れ込んで堆積したものであろうか。

遺構番号	性格	時代	遺物	備考
1001	掘乱	現代	コンクリート、モルタル片、近現代陶磁器（碍精堂、染付皿・碗、化粧瓶）、白磁碗（朝鮮？）、須恵器大甕、須恵器壺、須恵器杯（6C）、須恵器高台付坏（8C）、土師器大型小鉢、器台（古墳）、鉢取手、壺（古墳）、壺（古墳？、弥生後期）、七輪、土器小片（多　弥生土器が数点、多くは古墳時代か）	
1002	掘乱	現代	コンクリート、モルタル片、近世～近代陶磁（鉄、碗等）、須恵器大甕、須恵器壺、須恵器杯（6C）、須恵器高台付坏（8C）、鉢、壺（古墳）、壺、土器小片	
1003	掘乱	現代	縄紋無系青磁梅小類、白磁片、陶器小碗、陶器瓶缺、須恵器大甕、須恵器壺、須恵器耳壺、須恵器坏（6C 中頃）、須恵器坏蓋（～ろ記号）、土師器、甕（弥生時代）、器（弥生後期中頃）、土器小片（弥生～古墳）、薄石板片、鉄滓	
1004	土抗	11～12 世紀	白磁碗Ⅳ類、褐釉陶器片、須恵器壺、須恵器坏蓋（8C）、須恵器高台付坏（8C 後半）、土師器、甕（弥生時代）、鉢（古墳時代？）、土器小片	いずれも小片
1005	掘乱	現代	須恵器片（横瓶か）、土師質瓶缺、土器小片	
1006	柱穴状遺構	14 世紀	縄紋無系青磁梅Ⅳ？類、白磁碗Ⅳ類、陶器片、須恵器壺、土師坏（糸切り）、甕（弥生中期）、瓦質平瓦、土器小片（弥生土器が多い）	
1007	水田	近代以降	須恵器壺缺	
1007 水田耕作土床土	水田	近代以降	縄紋碗・小鉢（近世～近代）、黒色縄紋碗（近世？）、縄紋無系青磁碗Ⅱ類・梅形瀬戸碗（13～14C）、白磁碗Ⅳ・Ⅴ類、白磁小片、陶器瓶、陶器鉢、陶器瓶、高麗青磁小片、須恵器高台付坏、須恵器壺（破片　多）、須恵器高坏、須恵器鐘、須恵器坏蓋（8C）、瓦質火鉢、瓦器片、羽口、七輪、土製人形片、瓦（土師質、瓦質）、土師器、壺（弥生中期～古墳時代　破片多数）、器（弥生後期～古墳前期）、埋鐘、鉢取手、器坏、薄石板片、鉄、鉄滓、石皮？片、	
1007 床土下茶褐色包含層	水田	近代以降	須恵器坏蓋（7C）、須恵器坏（7C）、須恵器高台付坏、須恵器壺（古墳中～後期）、須恵器坏蓋、須恵器高坏、土師器、土師坏（ヘラ切り）、土師器高台付坏（須恵器生産ほか？）、土師器壺（古代、古墳時代～破片多）、鉢取り手、羽口、土器小片（多　古墳時代か）土	
1007 1～2 層	水田	近代以降	白磁小片、陶器缺？、須恵器壺、瓦（瓦質）、土器片	
1007 1～2 層トレンチ	水田	近代以降	縄紋碗・縄紋急須（近世以降）、陶器碗（近世）、陶器瓶缺、白磁碗Ⅳ類、白磁紅皿、白磁瓶、白磁香？、須恵器大甕、須恵器壺、須恵器坏（6C 後半）、釘、	
1007 1 層	水田	近代以降	ガラス瓶？片、近世～近代陶磁（小碗、皿、小徳等の小片　多）、縄紋無系青磁碗Ⅰ・Ⅱ類、青磁碗片、白磁碗Ⅳ類、白磁小片、陶器（大型火鉢、大甕、瓶？、壷、瓶缺・近世？、蓮瓦　多）須恵器（小片多）、器台（古墳）、須恵器坏（6C 後半～8C）、須恵器坏（6C 後半）、須恵器壺、須恵器大甕、須恵器鐘、須恵器高坏、須恵器提瓶、須恵器長頸壺（焼成不良）、土師器、土師坏（糸切り？）、土師器火鉢、土師器大鉢、土師質壺（古墳時代～古代）、土師器蓋、土師器高台付坏（8C）、移動式竈、鉢取手、器坏、器台、器（弥生後期）、器（弥生時代中～後期）、壺（弥生時代？）、土器小片（多量）、七輪、瓦（瓦質　うち軒平瓦が 1 点）、石皮、	
1007 2 層	水田	近代以降	染付磁器片（小碗・小徳等　近世～近代）、白磁片（碗・皿等　古代末～近世）、陶器碗、陶器鉢、磁器陶器注口瓶、陶器瓶缺、陶器片、須恵器大甕、須恵器壺（破片　多）、須恵器坏蓋（7C、8C）、須恵器鐘、須恵器坏 dr 無の蓋、須恵器坏（6C～8C）、須恵器高台付坏、陶器小片、瓦質皿、土師器、瓦質火鉢？、鉢、土師坏、土師皿、移動式竈？、土師器壺（古代、古墳時代）、器坏、土師器坏蓋（7C9、土師器（3 点）、土師質火鉢、土師坏、薄石片、鉄片、炉壁、土製面子、土製人形、棒状石製品、瓦（瓦質、土師質 -1 点に斜格子　後は ナデ）、石皮？、敲製敲磨、	須恵器片多く、一部に独土、陶器が良いものがある。
1008 (3023)	防空壕			
1009	柱穴状遺構	不明	土器小片（2 点）	
1010	掘乱	現代	須恵器壺、器（古墳時代、弥生後期）、鉢（手づくね）	
1011	柱穴状遺構	12 世紀	白磁碗、須恵器壺、須恵器坏蓋（8C）、土師坏（糸切り）、器（古墳、弥生後期、弥生中期）、土器小片	
1012	柱穴状遺構	古代	須恵器坏蓋、須恵器片（7～8C、6C 後半）、土器小片（弥生～古墳時代）	
1013	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器片（1 点）、土器小片（弥生～古墳時代）	
1014	柱穴状遺構	中世	須恵器壺（3 点）、土師器壺（壁状・青海波紋タタキ）、土師皿（糸切り）、壺（弥生後期）、土器小片	
1015	柱穴状遺構	弥生～古墳時代	土器小片（4 点）	
1016	柱穴状遺構	中世	須恵器壺、土師皿（糸切り）、土器小片	
1017	柱穴状遺構	古代以降	須恵器片（3 点）、土器小片（2 点）	
1018	柱穴状遺構	不明	土器小片（3 点）	
1019	柱穴状遺構	古代以降	須恵器坏（小片　1 点）、土器小片（5 点）	
1020	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器小片（3 点）、土器小片（弥生～古墳時代）	
1021	掘乱	現代	須恵器片（1 点）、壺（古墳時代、弥生後期前半）、器（弥生後期）、土師器、土器小片	
1022	土抗	11～12 世紀	白磁片、陶器鉢？、陶器壺、須恵器大甕、須恵器坏蓋（8C）、須恵器坏？、須恵器壺 B1、瓦質大型鉢、瓦器小片、須恵器大型土器（機種不明）、壺（古墳～古代、弥生時代終末、弥生中期）、高坏（古墳）、土器小片（多）	
1023	掘乱	現代	青磁小片（1 点）、白磁小片（1 点）、須恵大甕、須恵器高台付坏（8C）、土師器（糸切り）、土器小片	
1024	掘乱	現代	須恵器大甕、須恵器坏蓋、土師器（古墳前期）	
1025	掘乱	現代	青磁片（1 点）、須恵器壺、須恵器坏、須恵器鉢（1C 前半？）、土師坏、壺、壺相？、土師大鉢、土器小片	
1026	柱穴状遺構	13 世紀	縄紋無系青磁碗Ⅰ類、須恵器大甕、瓦質火型鉢？、鉢取手、器（古墳前期）、土器小片	
1027	土抗		青磁片、白磁皿、陶器片、須恵器高台付坏、須恵器壺、土師皿、土師質瓦	
1028	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器壺、土器小片	
1029	土抗	12 世紀以降	青磁片、白磁碗片、須恵器壺、須恵器坏、須恵器坏蓋（8C）、土師坏（糸）、土師皿（糸）、壺（古墳）、土器小片）	
1030	柱穴状遺構	中世	縄紋無系青磁碗Ⅱ類、須恵器壺、土師坏（糸切り）、壺（古墳時代）、土器片	
1031	柱穴状遺構	古代末	白磁皿、須恵器壺、須恵器坏蓋（6C、7C）、須恵器高台付坏（8C）、土師器鉢、壺（弥生～古墳時代）、土器小片（多）	
1032	柱穴状遺構	7 世紀以降	須恵器壺、須恵器坏（6C 後半、7C）、土師皿（糸）、須恵器模倣壺（古墳後期）、土師質（古墳～古代）、土器小片	
1033	柱穴状遺構	7 世紀以降	須恵器壺？、須恵器坏蓋（8C）、須恵器坏）、器（弥生後期）、土器小片（主に古墳時代）	
1034	柱穴状遺構	古代末	白磁片、須恵器片、土師器坏蓋（8C）、壺（古墳）、土器小片	
1035	溝			
1036		古墳時代後期以降	須恵器片（小片　4 点）、土器小片	
1037	土抗			
1038	柱穴状遺構	不明	土器小片（2 点）	
1039	掘乱	現代	須恵器片、須恵器坏（6C）、土師器鉢、不明土製品、土器小片	
1040	柱穴状遺構			
1041	柱穴状遺構			
1042	生垣根痕			
1043	柱穴状遺構			
1044	柱穴状遺構			
1045	柱穴状遺構			
1046	柱穴状遺構			
1047	柱穴状遺構			
1048	生垣根痕			
1049	生垣根痕			

遺構一覧 1

遺構番号	性格	時代	遺物	備考
1050	生垣根痕	7C 以降	須恵器坏蓋（8C）、土器小片（5 点）	
1051	溝			
1052	柱穴状遺構	不明	土器小片	
1053	柱穴状遺構	古代末	須恵器坏蓋、須恵器坏、土師器壁（平行タタキ）、土師坏（6C　須恵器模倣）、土器小片	
1054	溝		最柴葉系青磁碗Ⅰ・Ⅱ類、越州窯系青磁碗、須恵大壁、土師椀、白磁碗、瓶	
1055		中世	須恵器壁、土師皿（糸切り）、土器小片	
1056		14 世紀以降	白磁皿Ⅸ類、須恵器壁、瓦質擂鉢、土器小片、銭片	
1057	柱穴状遺構	7 世紀以降	須恵器壁、須恵器坏蓋（8C）、須恵器坏、土器小片（多　弥生～古墳時代）	
1057	生垣根痕			
1058	近現代井戸	現代	染付碗（現代）、白磁碗Ⅳ類、黒色土器 B 類椀、須恵器壁、須恵器坏蓋（1 点にヘラ記号あり）、須恵器坏（6C 後）、鹿取手、壁（古墳時代）、高坏（古墳前期）、鉢？（弥生か）、土器小片（多）、滑石製石鏃片（11～12C）、瓦質平瓦、銭片	
1059	欠番			
1060	包含層	古代末	白磁片、磁器陶器片、陶器大壁、須恵器大壁、須恵器壁、須恵器坏蓋（8C）、須恵器坏（6C）、須恵器高台付坏（8C 中）、土師器碗（10～11C）、黒色土器 B 類椀、円筒形棒（古代末）、土師器坏蓋（7C）、土師器高台付坏（8C）、小型壷（古墳）、壁（古墳後期　須恵器模倣、古墳前期、弥生後期）、壷、器台（弥生）、高坏（古代）、土器小片（多）	
1061	包含層？			
1062	生垣根痕	古代以降	須恵器大壁、須恵器壁、須恵器坏蓋、須恵器坏、黒色 B 類椀、高坏、壁、土器小片（多）、銭片	
1063	欠番	近現代	白磁（近現代）、須恵器片、七輪、土師器鍋、土師器壁（平行タタキ）、高坏、砥石、青銅製煙管、銭片	
1064	井戸	14 世紀	須恵器大壁、須恵器坏蓋（8C）、須恵器高台付坏（6C 後半）、土師椀（古墳前期）、小型丸底壺（古墳前期）、壁（古墳、弥生中～後期）、壺（弥生後期）	
1064 掘方	井戸	13 世紀前半	最柴葉系青磁椀Ⅱ類（13C 前半）、白磁水注片（12～13C）、土師坏（糸切り）、須恵器大壁（複数個体が 1 点ずつ）、須恵器壁（小片）、須恵器坏蓋（7C 後半）、須恵器坏蓋（8C 後半）、須恵器片、壁（弥生～古墳）、高坏（古墳）、壁（古墳、弥生後期中頃）、壺（弥生後期、古墳？）、土師器片	
1064 井筒	井戸	14 世紀	天目碗（極小片）、須恵器壁、須恵器坏蓋（6C）、土師皿（小片）、壁（古代？、弥生時代）、壺（弥生後期）、土器小片	
1064 周辺ベルト			須恵器大壁片（5 点　別個体）、壁（古墳、弥生後期前半）、大型壷（古墳時代前期）、壺（弥生中～後期）、鍋状口縁壺（弥生中期）、土器片（多）	
1065	土壙墓	11 世紀頃？、要検討	土師皿（ヘラ切り　完形 1 点）、土師坏（小片　ヘラ切り）、土師椀、須恵器高台付坏？（7 世紀後半）、須恵器坏（6C 中頃）、須恵器坏蓋（7 世紀末、6 世紀）、須恵器壁、移動式竈（小片）、壁（古墳）、土師鍋（格子・平行タタキ）	SP1066 を切る
1066	柱穴状遺構	古代末	須恵器壁、土師器椀（10～11C）、土師器壁、高坏（古墳前期）、土器小片	SX1065 に切られる
1067	柱穴状遺構	古代以降	須恵器小片、土師器鍋、土器小片	
1068	欠番	現代	白磁片、須恵器壁（小片 2 点）、壁（古墳時代、弥生後期）、土器小片	
1069	欠番	現代	陶磁器（3 点　近現代）、瓦質大型鉢（近世～近代）、土師質壁（古代、古墳時代）、壁（弥生中期）、器台（弥生）、土器小片	
1070	欠番	現代	白磁（現代）、磁器陶器、須恵器坏蓋（7C）、須恵器壁、土師椀、土師坏（糸切り）、瓦質擂鉢、七輪、須恵器模倣壁（格子・平行タタキ）、小型丸底壺、土師器（古墳時代）、壁（弥生中期）、壷（弥生後期前）、高坏？（古墳前期）、鹿頭瓶？	
1071	土抗			
1072	包含層？			
1073	柱穴状遺構	中世	須恵器壁、須恵器坏蓋（8C）、須恵器坏（6C 後半）、土師器椀、土師坏（糸切り）、壁（古墳時代、弥生後期）、壷（弥生中期）、土器小片、滑石製石鏃片	SX1077 を切る
1074	欠番	現代	瓦質坏（ヘラ切り）、土器小片（3 点）	
1075	欠番		須恵器壁、須恵器高台付坏（8C 中）、土師質大型製品片、土器小片（6 点）、不明鉄器	
1076	土抗			
1077	土抗	古代末～中世	須恵器壁、須恵器坏蓋（7C）、須恵器坏、瓦器椀、壁（古墳前期、弥生？）、壷、高坏、土器小片、銭浮	
1078	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器大壁、須恵器坏（6C）、土師器壁（須恵器模倣）、壷（弥生後期）、壁（古墳前期）	
1079	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器壁、須恵器坏、壁（古墳時代）、移動式竈？、土器小片	
1080	欠番	現代	染付碗（近世）、青磁片、白磁、陶器片、須恵器壁、須恵器坏（6C）、須恵器高台付坏、七輪、土師器椀、土師皿（糸切り）、壁（弥生中～後）、壷（弥生後期）、土器小片、平瓦（瓦質）、銭片、砥石、黒曜石片（1 点）	陶磁器は近世から近代
1081	柱穴状遺構	11C 以降	白磁皿（11C）、須恵器坏蓋（8C）、須恵器壁、壷（弥生後期？）、壁（古墳時代、弥生）、土器小片	
1082		古墳時代後期以降	須恵器壁（小片 2 点）、須恵器坏？、土器小片（主に古墳時代か）	
1083	柱穴状遺構		須恵器壁（小片 3 点）、須恵器坏蓋（6～8C）、土師器椀、壁（古墳時代、弥生後期）、高坏？、土器小片（多）	
1084	柱穴状遺構	不明	土器小片（古墳時代かまか）	
1085	柱穴状遺構	7C 以降	須恵器壁、須恵器坏蓋（8C）、須恵器坏、壁（古墳時代、弥生後期）、土器小片	
1086	包含層？			
1086	欠番			
1087	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器片、土器小片（3 点）	
1087	不明	8 世紀以降	須恵器壁、須恵器坏（6C 後半、8C）、須恵器坏蓋（7C）、土師器椀（10C 頃）、壁（古墳時代、弥生？）、土師椀（古墳前期）、土器小片（多　古墳時代か多い）	
1088	柱穴状遺構	8 世紀以降	須恵器高台付坏（8C ？）、土師質（小片 1 点）、土器小片（2 点）	
1089	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器壁（小片 1 点）、須恵器片、土器小片（1 点）	
1090	土抗	8 世紀以降	須恵器壁、須恵器坏蓋（8C）、須恵器坏（6C 後半　ヘラ記号）、土師質高台付坏（6C）、土師器壁（格子タタキ）、壺（古墳時代？）、土器小片	
1091	溝状土抗？			
1092（2011）	溝			2128 を切る
1092・1080			最柴葉系青磁碗Ⅰ・Ⅱ類、青磁椀、白磁碗Ⅳ類、白磁皿、陶器鉢、須恵器大壁、須恵器壁、須恵器坏蓋（6～7C）、須恵器高台付坏、須恵器坏、須恵器椀、瓦器片、土師坏（糸）、土師皿（糸）、土師質鉢、壁（古墳、弥生後期）、壷（古墳前期）、鉢？、高坏、壁相？　銭片	
1093	柱穴状遺構			
1094	柱穴状遺構	6～7 世紀	須恵器坏蓋、土師坏？	1060 に切られる
1095	柱穴状遺構	古代末～中世	須恵器片、土師器椀、土器小片	
1096	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器片（3 点）、土器小片（6 点）	
1097	柱穴状遺構	近代	染付片（3 点）、須恵器壁、須恵器高坏、須恵器坏、瓦器椀、壁（弥生後期）、土師器壁（格子タタキ）、土器小片	
1098	柱穴状遺構	不明	土器小片（4 点）	
1099	柱穴状遺構	8C 以降	須恵器壁、須恵器高台付坏（8C）、土師器壁（平行タタキ）、壁（弥生後期）、土器小片	
1100	生垣根痕	11 世紀？	須恵器壁、須恵器坏？、土師椀、土師坏（ヘラ切り）、土師鍋、土器小片	
1101	溝状土抗	古墳時代以降	壁（古墳前期）、土器小片	
1102	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器壁、須恵器坏蓋？、土器小片	

遺構一覧２

遺構番号	性格	時代	遺物	備考
1103	溝　1051と同じ		縄泉窯系青磁片、	SD1051と同一遺構
1104		12世紀後半	縄泉窯系青磁片、同安窯系青磁椀、土師坏（糸）、甕？、土器小片	
1105	溝			
2001	溝　1051と同じ	14世紀	縄泉窯系青磁椀Ⅰ・Ⅱ類、白磁椀Ⅴ・Ⅵ？類、白磁香？、白磁小片、褐釉陶器片、陶器盤、陶器瓶、須恵器（6C後半）、須恵器高台付坏（7C後半、8C中～後半）、須恵坏蓋（8C）、須恵大甕、須恵甕（小片多）、須恵器鉢、須恵器高坏、土師椀（古代末）、瓦器椀、土師坏（糸切り？）、土師皿（糸）、土師質鉢（12～13C）、土師質蓋鉢、鍋取手、甕（古時期～中世、弥生後期）、土師質坏（6C後半）、土師質壺（両面に平行タタキ）、壺（弥生後期）、棒状土製品（勘考の柄か）、平瓦（瓦質）、土器小片（多　弥生土器が多い、土師質鉢や陶器、土師皿等もみられる）	土師質は須恵器を模したものが数ある。
2002	溝　1103と同じ	14世紀	天目椀、縄泉窯系青磁椀Ⅰ類、白磁椀Ⅳ・Ⅴ類、白磁皿、白磁片、陶器瓶（8世？）、須恵器捏鉢（12～13C）、陶器椀、須恵器壺（小片　多）、須恵器坏蓋（8c）、須恵器坏（6C後半）、須恵器椀、須恵器高台付坏（7C後半、8C後半）、須恵器鉢？（外面記ハラ記号）、須恵器平瓦（縄目圧痕）、土師器高台付坏、瓦質羽釜、瓦質擂鉢、土師坏（糸）、土師皿（糸）、大型二重口縁壺（古墳前期）、甕（弥生時代）、壺（弥生後期）、高坏（古墳前期）、土器小片（多　弥生～中世）、鉄片、滑石製石鍋片、	
2002（1103）一括下げ		12世紀	白磁椀Ⅴ類、白磁椀片、白磁皿、須恵器壺、須恵器坏蓋（6C）、須恵器坏（6C後半）、須恵器高台付坏（8C後半）、須恵器鉢、土師坏（糸切り？）、甕（古墳時代、弥生後期、弥生中期）、鉢（弥生終末）、高坏（弥生？）、壺（弥生後期）、黒曜石片（1点）、土器小片（多　弥生土器が多い）　馬歯	須恵器は小片で坏蓋片が多い
2002 トレンチ			須恵器壺、須恵器小片、土師器椀？、高坏（古墳）、壺（古墳）、土器小片	
2003	土抗　1027と同じ		縄泉窯系青磁椀Ⅰ類（小片）、青磁小椀、白磁椀片、白磁皿、陶器盤、陶器壺？、須恵器捏鉢、須恵器瓶（小片多）、須恵器坏蓋、須恵器高台付坏（7C末～8C）、瓦質深鉢（中世）、土師坏（糸切り）、土師皿（糸切り）、土師器捏鉢（12C頃か）、土師器椀、鍋（古墳後期）、高坏、土器小片（多　古墳から中世）、土師質平瓦（縄目圧痕）	
2004	土抗	古墳時代後期以降	須恵器片、土師鍋、土器小片	
2005	溝　1086と同じ		白磁片、須恵器坏蓋（8C、7C）、須恵器坏、須恵器椀？、土師坏（糸切り）、土器小片（多）	
2006	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器鍋、壺（弥生？）、土器小片	
2007	溝　1105と同じ	古墳時代後期以降	須恵器壺、高坏（古墳）、壺（弥生後期）	
2008	土抗	古墳時代後期以降	須恵器椀？、須恵器鍋、須恵器高坏、須恵器坏蓋、須恵器坏、壺（古墳、弥生後期）、土器小片（多）	
2009	柱穴状遺構	不明	土器片（1点）	
2010	柱穴状遺構　1032と同じ	古墳時代後期以降	須恵器壺（小片）、土師鍋（平行・同心円タタキ）、土器小片	
2011	溝			
2012	柱穴状遺構　2121と同じ	古墳時代後期以降	須恵器片、土器小片	
2013	溝　1086と同じ	古代末～中世	青磁片、褐釉陶器片、須恵器壺、須恵器坏蓋（7C）、須恵器小片、土師台付鍋、高坏（古墳前期）、壺（古墳、弥生後期）、甕？、土器小片	
2014	土抗　2134と同じ	古墳時代前期	壺（古墳前期、弥生後期）、不明土製品（扁壁薄く内面は布圧痕）。	
2015	2120と同じ	古墳時代前期	壺（古墳時代前期　破片多）、器台、土師椀（古墳前期）	
2101	方形土抗	近現代	白磁椀片、褐釉陶器壺、須恵器大壺、須恵器壺、須恵器高坏、須恵器坏蓋（8C）、須恵器高台付坏（7C後半、8C）、土師器椀、瓦質土器片、高坏（古墳）、鍋取手、壺（古墳）、土器小片（多量）、土師質平瓦、滑石製石鍋片	
2102	柱穴状遺構	8世紀～10世紀	須恵器壺、須恵器坏蓋（8C）、須恵器高台付坏（9C）、瓦器椀？、土師椀？、土師質（古代？）、壺（弥生？）、土師質椀？、土器片（弥生～古墳時代）	
2103	柱穴状遺構	古代後半～中世	土師器椀、土器小片（2点）	
2104	土抗	古代から中世	須恵器壺（小片　多）、須恵器坏蓋（7C）、土師器大型鉢？、高坏、壺（古代？、古墳）、土器片（多）	小片のみで実測不可
2105	溝	古代末～中世	青磁片、白磁皿、陶器瓶、須恵器壺、須恵器坏蓋、壺（古墳）、土師質鉢？、高坏（弥生後期）、土器小片	いずれも小片
2105　1～3層		古代	須恵器壺（小片多）、須恵質小椀、須恵器坏蓋（6C末～8C）、須恵器坏（6C後半）、鉢取手、壺（古墳後期）、須恵器椀盤、古墳前期、弥生中期）、壺（古墳時代）、土師椀、高坏（古墳前期）、土器小片（多量　古墳時代が多い）	
2106	溝	古代末	白磁椀片、白釉陶器片、陶器片、須恵器壺、須恵器坏蓋（8C、6C？）、須恵器椀、土師坏（糸切り）、土師皿（灯明皿含む）、土師鍋、土師質（須恵器模倣　古墳後期）、壺（弥生後期）、土器（小片　2点）、土器小片（多　古墳時代が主か）	
2107	土抗	7～8世紀	須恵器坏（7～8C）、壺（古墳前期）、壺（弥生後期）、土器小片（弥生～古墳時代）	
2108	谷			
2108上層	谷	14世紀	縄泉窯系青磁椀Ⅱ類（13C中～14C初）、越州窯系青磁椀、白磁椀片、須恵器大甕、須恵器壺、須恵器坏（5C末～6C）、須恵器高坏、須恵器丸瓦（縄目圧痕・布目）須恵器捏鉢、須恵器坏蓋（6C前～中）、壺（古墳時代、弥生中～後）、土師器椀、土師坏（糸）、壺（古墳前期、弥生後期）、高坏（弥生後期）、製塩土器（弥生中期中頃）、器台（弥生後期）、鍋底（弥生中期後半）。	
2108下層	谷	古代	須恵器坏蓋（8C）、須恵器壺、須恵器坏、須恵器鍋（小片　4点）、須恵器片、長頸壺（古墳前期　全体の7割遺存）、鉢（古墳前期）、壺（破片・多　古墳前期）、高坏（弥生後期中頃～後半、古墳）、壺（弥生後期）、大型二重口縁壺（弥生後期後半）、器台土師器（古代、古墳後期、古墳前期）、壺（古墳時代、弥生後期後半、弥生後期前半）、器台、壺（弥生中期中頃）、高坏（古墳、弥生後期後半）、器台（弥生～古墳）、製塩土器（弥生中期）、袋状口縁壺（弥生中期後半～後期前）、後期後半）、鍋底（弥生中期）、瓦質平瓦、砥石（砂岩）。	古墳時代前期の須恵器片が多い
2108上～下層		古墳時代中期	須恵器坏蓋（小片2点　1点にヘラ記号あり）、須恵器坏（6C中）、須恵器壺（小片5点）、須恵器高坏（小片1点）土師椀（古墳前～中）、器台、鉢、壺（古墳前期・破片多、古墳前～中期、弥生終末）、壺（弥生後期中頃、後期後半・袋状口縁壺）、高坏（弥生後期後半）、須恵器大壺（破片大きい）、須恵器高坏脚or鐙部原？（波状文）、須恵器坏蓋（6C、7C、1点にヘラ記号あり）、須恵器坏（6C後）、須恵器高坏脚部（焼成不良）、須恵器高台付坏（7～8C）、土師器（古代？、古墳後期）、鍋取手、大型二重口縁壺（古墳前期）、壺（弥生中期）、高坏（古墳）、壺（弥生後期）、土師器（古墳前期）、器台（古墳）、黒曜石片（1点）	
2108　1～3層		古墳時代後期	須恵器坏蓋（6C？）、須恵器、器台（弥生後期～古墳）、高坏（古墳前期後）、大型壺（弥生後期～古墳　、高坏、小型鉢（弥生？）、鉢（弥生？）	
2108 シルト層			壺（弥生後期、古墳時代）、　　砥土機（焼成してる？）。	
2108 シルト下層				
2108 シルト下粗砂層		弥生時代後期前半？	須恵器坏（小片1点のみ）、壺（破片多　弥生中～後）、壺（弥生後期前～中）、高坏（弥生中～後）、器台（弥生）、鍋底？、砥石（砂岩）。	破片は大きめであるが口縁などは少ない。須恵器片は混入か
2108 西側（砂丘）ベルト			壺（弥生後期後半、弥生後期中頃、弥生中期中頃）、壺（弥生後期後半、弥生後期中頃）、器台	
2108 砂丘側ベルト		中世	縄泉窯系青磁片、須恵器器台付坏（8C）、須恵大甕、土師坏（糸切り）、土師質（古墳後～古代？、古墳前期）、壺（弥生後期中頃、弥生中期）、高坏、滑石片	
2109	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器坏蓋、須恵器坏（6C中）、須恵器片、壺（古墳、弥生中期）、土器片（古墳時代が主）	
2110	柱穴状遺構	古墳時代以降	須恵器坏（6C中）、壺（古墳前期、弥生後期）、土器小片	
2111	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器坏蓋、須恵器壺、土器小片	
2112	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器坏蓋、壺（古墳時代）、土器小片（2点）	

遺構一覧3

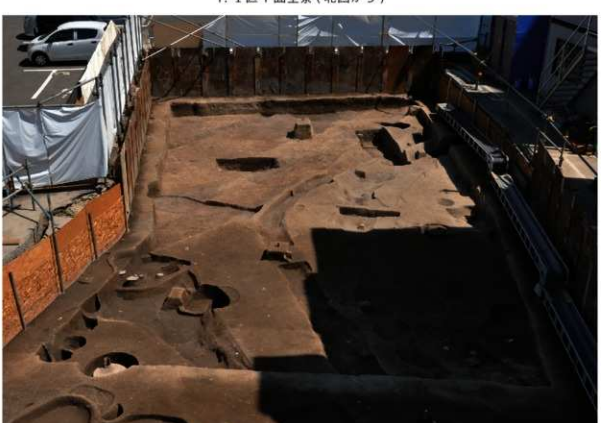
遺構番号	性格	時代	遺物	備考
2113	柱穴状遺構	古墳時代以降	須恵器提瓶、須恵器坏蓋（6C）、須恵器鐙、甕（古墳時代、弥生中～後期）、土器小片	
2114	土抗	古墳時代	土器小片（弥生中期～古墳時代）	
2115	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器坏（6C後）、甕（古墳、弥生後期前）。	
2116	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器鐙、須恵器坏（6C）、鐙、壷（弥生後期）、土器小片	
2117	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器片、鉢？（古墳から古代）、小型九底壷、鐙（古墳前期）、土器小片	
2118	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器坏蓋（6c 前）、鐙（古墳前期）、須恵器坏蓋（前期）、壷（不明）、鉢？（口縁に波状文）。	
2119	柱穴状遺構	古墳時代以降	鐙（古墳前期）、土器小片	
2120	柱穴状遺構	中世	瓦器片（小皿か）、須恵器片、土師器、土師坏（糸切り）、鐙（古墳）、土器小片、土鐘（小片）、黒曜石片（1点）	
2120 一段下ｽﾞ		7C 以降	須恵器鐙、須恵器坏蓋（7C）、鐙（古墳～古代）、土器小片	
2121	柱穴状遺構	古代以降	瓦器椀（小片）、土器片（1 点）	
2122	柱穴状遺構	不明	土師坏？、高坏（弥生後期）、土器小片（弥生～古墳か）	
2123	柱穴状遺構	不明	土器小片（2 点 弥生時代か）	
2124	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器鐙、土器小片（1 点）	
2125	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器坏（6C）、壷（古墳後期）、鐙（古墳、弥生後期前）、土器小片	
2126	土抗		須恵器坏蓋（小片 7C）、須恵器鐙、鐙（古墳前期、弥生後期）。	遺存不良
2127	柱穴状遺構		須恵器坏蓋（7C）、須恵器鐙、土師器（須恵器模倣～古墳後期）、土師椀、土器小片	
2128（1092）	畝次	古代末～中世、もしくは近世	縁釉陶系青磁碗（・ｕ類、白磁碗ⅣＢ類、瓶類為源産、陶器産り鉢片（近世以降？）陶器注口壷（注口部）、陶器椀、陶器小香、須恵器坏蓋（8C、7C、6C 1点ヘラ記号）、須恵器高台付坏（8C）、須恵器坏（6C）、須恵器鐙、須恵器大鐙、須恵器蓋、須恵器高坏、黒色土器Ｂ類椀、土師椀（古墳前期）、土師坏（糸切り）、土師皿（糸切り）、須恵器片、鉢取手、鐙取手、鐙（古代、古墳前～中）、高坏（古墳前）、壷（弥生後期）、器台、鐙種（弥生中期）、土器小片、鉄滓	
2128 一段下ｽﾞ		古代末以降	須恵器壷？、須恵器坏（7～8C）、須恵器鐙、鐙（弥生中～後）、高坏（古墳）、壷（弥生後期）、土器小片	
2129	柱穴状遺構	弥生中期以降	鐙（弥生中期）、土器小片（2 点）	
2130	柱穴状遺構	古墳時代	壷（古墳か）、土器小片	
2131	柱穴状遺構	不明	土器小片（3 点）	
2130・2131		古墳時代後期以降	須恵器坏、鐙（古墳時代）、土器小片	
2132	柱穴状遺構	古墳時代以降	土師器鉢？、土器小片（3 点）	
2133	柱穴状遺構	古墳時代	小型九底壷、鐙（古墳前期）、器台、壷（古墳時代）	
2134	土抗	古代前期	須恵器坏蓋（7C、6C ?）、須恵器高台付坏（8C）、須恵器高坏、須恵器鐙、土師鐙（須恵器模倣・古墳後期）、鐙（弥生中期）、土器小片（弥生～古墳）	いずれも小片
2135	包含層	7C 以降	鐙（弥生中期）、土師器坏蓋（8C）、土器小片	
2136	柱穴状遺構	古墳時代以降	鐙（古墳時代）	
2137	土抗		縁釉陶系青磁碗（・ｕ類（ｕ類内底部にスタンプ 14C）、高麗青磁（瓶 象嵌）、白磁片、陶器片、須恵器鐙、須恵器坏蓋、土師坏（糸切り）、土師皿（糸切り）、土師椀、鉢、土師器鐙（須恵器模倣・古墳後期）、鐙（弥生後期）、鉄滓。	
2138	柱穴状遺構		鐙（古墳前期）、土器片（1 点）	
2139				
2140				
2141				
2142	柱穴状遺構			
2143	柱穴状遺構			
3001	土抗	8 世紀前半	瓜器片、須恵器坏蓋（8C 前半、6C、1 点ヘラ記号あり）、坏（8C）、須恵器高坏、須恵器鐙（小片 多）、土師器高台付坏（8C）、高坏（古墳）、土師鐙（古墳前期～古代、一部須恵器模倣あり）、鐙（弥生土器）、土器片（ 一部弥生）	
3001 北側一段下ｽﾞ			須恵器坏蓋（6C）、土師鐙（須恵器模倣、古墳後期）。	
3002	土抗	7～8 世紀頃	須恵器鐙、須恵器坏（7～8C）、須恵器高坏、鐙（弥生～古墳）、土器小片（古墳時代か）。	
3003	土抗	8 世紀前半	須恵器坏蓋（8C 前半、7C、6C 2 点ヘラ記号あり）、須恵器坏（6C 後）、須恵器高坏、須恵器鐙、須恵器鐙、須恵器鐙、須恵器大鐙、土師器高台付坏、高坏、鉢、鐙（古墳前期、弥生中～後期）。	
3004	土抗	10～11 世紀	須恵器高台付坏（8C）、須恵器鐙、須恵器大鐙、須恵器坏蓋（6C 前、7C 1 点にヘラ記号）、鐙？、土師器椀、土師器鐙（須恵器模倣）、鐙取手、土器小片（弥生～古墳時代）	
3005	谷（近世水田下）		須恵器坏蓋（6C、7C 後半、6C、2 点にヘラ記号あり ・一部焼成不良）、須恵器坏（6C）、須恵器提瓶、須恵器長頸壺、須恵器鐙（一部焼成不良）、須恵器大鐙、須恵器高坏（焼成不良）、須恵器鐙、須恵器高台付坏（8C）、土師器大型鐙（古代？ 須恵器模倣・古墳後期）、鉢、鐙取手、高坏（古墳）、器台（古墳）、土器片（多量）。	須恵器高坏、須恵坏蓋に焼成不良の個体を遺物有り
3006	溝	12 世紀後半	縁釉陶系青磁碗、白磁碗片、白磁皿（Ⅵ-2 類）、陶器壺、陶器鐙、須恵器坏蓋（1 点ヘラ記号有り 6C、7C）、須恵器坏 須恵器高台付坏（8C）、須恵器高台付鐙、須恵器高坏、須恵器鐙、土師器椀、瓦質土器片。土師坏（糸切り 多、ヘラ切り 1 点）、土師皿（糸切り）、土師器高台付坏、鐙取手、土師鐙（須恵器模倣 平行タタキ、古墳後期）、器台（弥生～古墳）、壷（古墳時代、弥生後期、弥生中期）、高坏（古墳前～中）、 棒状土製品、鉄滓 、須恵質平瓦片（焼成不良）。	
3007	溝		須恵器鐙、須恵器椀、須恵器高台付坏、須恵器坏蓋（ヘラ記号 焼成不良）、壷（古墳前期、弥生後期、弥生中期前葉）、器（弥生後期）、器台、土器小片。	
3008	溝		白磁片、須恵器坏蓋（8C）、須恵器坏、須恵器鐙、土師坏（ヘラ）、土器小片、滑石製石錘片。	
3009	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器片、壷（弥生後期？）、土器小片（3 点）	
3010	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器坏、土師鐙（平行タタキ～同心円タタキ～ナデ）	
3011	柱穴状遺構			
3012	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器、鐙（古墳前期？）	
3013	溝状土抗	7 世紀	須恵器坏蓋（6c 末～7 c）、須恵器、土器小片	
3014	溝状土抗	古墳時代後期以降	須恵器大鐙、鐙（弥生～古墳か）、土器片	
3015	溝状土抗	不明	土器片（1 点）	
3016	溝既欠	不明	土器小片（2 点）	
3016 東側 1 段下ｽﾞ			須恵器坏蓋（7C 前）、鐙（弥生後期）、土器小片	
3017	溝状土抗	7 世紀後半	須恵器坏蓋（7C 後半）、須恵器坏、須恵器鐙、壷（古墳、弥生中～後）、土師椀、土器小片	
3018	柱穴状遺構	古墳前期以降	鐙（弥生後期）、大型鐙（弥生後期～古墳前期）、土器片	
3019	溝 or 谷	古墳時代前期	瓜坏（古墳前期、弥生中～後期）、器台（古墳時代）、鐙（弥生終末～古墳初頭、弥生後期中頃、鐙（古墳前期）、砥石（砥戦）	
3019	溝 or 谷		縁釉陶系青磁碗、白磁碗片、土師器椀（10～11C）、須恵器高台付坏、（8C）、須恵器坏蓋（一部にヘラ記号有り 6C、7C）、須恵器坏（6C 前～中）、須恵器鐙、須恵器鐙、須恵器鐙、土師器 須恵器模倣 古墳後期 破片多。古墳前～中 破片多）、大型鐙？（平行タタキ 古墳後期？）、高坏（弥生後期～古墳中期）、器台、小型九底壷（古墳前期）、鉢、鐙取手、土師椀、長頸壷（古墳前期）、袋状口縁壺（弥生時代後期中頃）、小型鉢（弥生時代）、鐙（弥生終末、弥生時代中～後期）、鉄釘、鉄滓、滑石片、軽石（未加工）。	遺物はコンテナケース型九底壷 で 12 箱
3020	柱穴状遺構	12 世紀	白磁碗Ⅴ類、須恵器坏、須恵器坏蓋？、土器小片	

遺構一覧 4

遺構番号	性格	時代	遺物	備考
3021 （SD3145 を含む）	溝 or 谷		陶器香（12～13C）、須恵大甕、須恵甕（複数個体の破片が１点ずつ）、須恵器坏（6C 末　3 点別個体）、須恵器高坏、須恵器平瓮、須恵器高台付坏（世紀後半）、土師器（古墳前期　破片多）、土師大甕（格子、平行タタキ）、甕棺（弥生中期）、小型鉢（古墳？）、土師椀、高坏（古墳前期、弥生）、甕（古墳前期、弥生中期）、土師甕（古墳前期）、土師器坏（6C）、鞆取手、鉄片	土師大甕と坏は須恵器を模したものが多い。
3022	柱穴状遺構	古墳時代以降	土器小片（古墳時代）	
3023 （1008）	防空壕			
3024	防空壕柱穴	近代	白磁片（近代？）、須恵器片（小片１点）、土器片（３点）	
3025	防空壕柱穴	近代	土器片（3 点　不明）	
3026	防空壕柱穴	近代	陶器擂鉢（近代）、瓦質瓦（小片）、鞆取手、土師器坏蓋（6C）、土師坏（糸）、土器小片、鉄片	
3027	防空壕柱穴	近代	陶器片、土器片（小片１点）	
3028	防空壕柱穴			
3029	防空壕柱穴	近代	磁器（近代）、須恵器坏蓋（7C）、須恵器片、土器小片	
3030	柱穴状遺構	古墳時代後期以降	須恵器坏蓋（小片１点）、土器小片（３点）、	
3031	柱穴状遺構	古墳時代前期以降	甕（古墳時代前期）	
3032	柱穴状遺構	古墳時代以降	甕（古墳、弥生後期？）、弥生中期）、土器小片	
3033	溝 or 谷	古墳時代以降	須恵器甕（小片　複数個体）、須恵器坏蓋、須恵器坏（6C 中頃）、土師器大甕（平行タタキ→ナデ　須恵器模倣）、甕（古墳前期、弥生後期）、壷（古墳？、弥生後期）、高坏（古墳前期、弥生中～後期）、土器小片（多　多くは弥生土器か）、	
3034	柱穴状遺構	古墳時代以降	壷（古墳時代　１点の胴部が細片化）	
3035	柱穴状遺構	6 世紀以降	須恵器坏（6C）、甕（古墳時代）、土器小片	
3138				
3139	柱穴状遺構	古墳時代前期以降	甕（小片　古墳前期）、土器小片	
3140	柱穴状遺構	6 世紀以降	須恵器坏蓋？、甕（古墳前期）	
3139・3140		古墳時代後期以降	須恵器坏蓋？、甕（古墳時代）、土器小片	
3141	柱穴状遺構	12 世紀以降	須恵器坏蓋（6c）、土器片、甕（古墳時代、弥生後期）、移動鐘片？、土器小片	
3142		古墳時代前期以降	小型片口鉢（弥生中～後）、甕（古墳時代）、土器小片	
3143	柱穴状遺構	不明	土器小片（1 点）	
3144	谷？流路？	古墳時代後期	須恵器甕、甕（古墳前期、弥生終末、弥生後期中頃、弥生中期中頃）、壷（古墳前期、弥生後期、弥生中期中頃）、袋状口縁壷（弥生後期前半）、高坏（古墳、弥生中～後）、型型土器（弥生中期）、鉢（弥生）、器台、甕棺（弥生後期？、弥生中期）、土器小片、砥石	弥生後期の遺物多く、また各時期とも甕の破片が多い
3145	流路	弥生時代後期～古墳時代前期	壷（弥生中期）、甕（弥生後期～古墳前期）、器台？、土器小片	3021 の一部
3145 下層砂層		弥生時代後期～古墳時代前期	高坏（古墳前期）、器台？、甕（弥生後期中頃）、壷（古墳時代？）	
3146	土抗	古墳時代前期	甕（古墳前期、弥生後期、弥生中期中頃-赤色顔料）、壷（弥生後期前、弥生後期後半、弥生中期後半）、高坏、土器小片	
3147	井戸？	古墳前期	甕（古墳前期、弥生後期中頃、弥生中期）、椀？、器台（弥生終末～古墳）、高坏、二重口縁壷（古墳前期）、壷（弥生後期）、土器小片（多　主に弥生後期の壷と思われる）。	
3148	柱穴状遺構	弥生時代～古墳時代	甕（弥生中期）、土器小片（3 点　弥生～古墳時代か）	
3149	土抗	古墳時代中期末～後期前半	壷（古墳前期）、甕（胴部　古墳前期か）、鉢、小型丸底壷、高坏（古墳前期後半）、土器小片	3158 を切る
3150	柱穴状遺構	弥生時代？	甕（弥生？）、土器小片（3 点）	
3151	土抗	弥生時代後期末	甕（弥生後期後半←小片多、弥生中期）、壷（弥生後期中～後）、高坏（弥生後期末）、	いずれも小片で復元は少ない
3152	柱穴状遺構	古墳時代前期以降	甕（弥生終末、古墳）、壷（古墳？、弥生後期中頃）、器台（弥生後期）	
3153	柱穴状遺構	古墳時代以降	甕（古墳時代、弥生時代後期？）、土器小片	
3154	柱穴状遺構	古墳時代後期	須恵器、須恵平瓮（6C 末、長頸壷？）、鞆取手、壷、土器片（弥生～古墳）	
3155	柱穴状遺構	古墳時代	甕（小片　古墳時代）、土器片	
3156	溝	弥生時代後期	甕（弥生後期）、壷（弥生後期後半）、器台、土器小片（弥生壺か）、大型壷（弥生後期？）	
3157				
3158	溝状遺構	古墳時代前期	壷口縁（二重口縁か　古墳前期）、土器小片（1 点）	3149 に切られる
I 区 2 ～ 3 面掘り下げ			縄束巣系青磁碗 II 類、白磁碗 V 類、陶器片、須恵器大甕、須恵器甕（小片多）、須恵器坏蓋（小片多　2 点に ヘラ記号有り）、須恵器坏（6C）、須恵器高台付坏（6C 前）、土師器椀、土師坏（ヘラ切り、糸切り）、鞆取手（5 点）、壷（古墳前期）、椀、高坏（古墳？、弥生中期）、器台、甕棺（弥生中期）、薄石製石鏃片、凹石	
II 区 1 面検			縄束巣系青磁碗（小片）、縄束巣系青磁皿、陶器片、須恵器大甕、須恵器甕、須恵器高台、須恵器坏蓋 1（7C）、須恵器高台付坏（6C）、移動式鐘、壷（弥生後期～古墳？、土器小片（多）、薄石石鏃片。	
II 区 1 ～ 2 面掘り下げ			施錠番所形	
II 区 2 面清掃			壷（弥生中期）、高坏（弥生中期）	
II 区南端壁面			大型二重口縁壷（古墳前期）、袋状口縁壷（弥生中～後期前）、壷（弥生）、椀（弥生中～後）、	

遺構一覧５

1. Ⅰ区１面全景（北西から）



2. Ⅰ区２面全景（北西から）

1. Ⅰ区３面全景（北西から）

2. Ⅱ区１面全景（南から）

1. Ⅱ区２面全景（南から）

2. Ⅱ区北側（東から）

1. SE1064 (東から)

2.SE1064 井筒 (東から)

3.SE1064 土層 (東から)

4.SE2137 (東から)

5.SE2137・SD2128 土層 (東から)

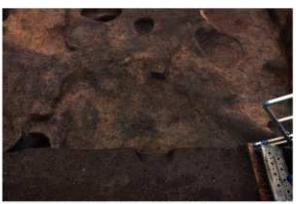
6.SE3147 (西から)

7.SE3147 (西から)

8.SE3148 (東から)

1.SK3023 (東から)

2.SK1065 (東から)



3.SK2104 (東から)

4.SK2104 土層 (西から)

5.SK3001 (北から)

6.SK3002 (北西から)

7.SK3003 (北から)

8.SK3004 (東から)

1.SK3006 (東から)

2.SK3146 (北から)

3.SK3149 (東から)

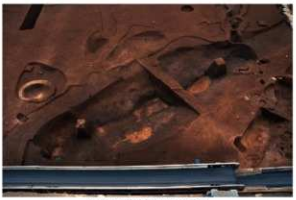
4.SK3149 遺物出土状況 (南西から)

5. SX3144 (東から)

6.SX3144 土層 (東から)

7. Ⅱ区２面東側 (北から)

8. 廃土置場 (西から)



1.SD1092 (西から)

2.SD1092 土層 (北西から)

3.SD2011(西から)

4.SD2011 漆器出土状況

5.SD2128 (西から)

6.SD3021 土層 (北東から)

7.SD3006 土層 (西から)

8.SD3019 (北から)

1.3007 (水田) 土層 (西から)

2.SD3019 土層 (東から)

3.SD3021 (西から)

4.SD3145 (東から)

5.SD3021 (北東から)

6.SD3145 土層 (南から)

7. Ⅰ区南壁土層 (北から)

8. Ⅱ区 1 面遺構検出状況 (北東から)

報告書抄録

ふりがな	よしづか 11
書名	吉塚１１
副書名	吉塚遺跡第13次調査報告
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第1299集
編著者名	扇山洋
編集機関	福岡市教育委員会
所在地	福岡市中央区天神1丁目8－1
発行年月日	2016/03/25

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
よしづかいせき 吉塚遺跡	福岡市博多区 堅粕 413－2,413－6 415－1,419－2,420－5	40137	0123	33° 59′ 49″	130° 42′ 39″	20140414 ～ 20140627	427㎡	共同住宅 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
那珂遺跡群 第145次	集落	弥生時代後期 ～近世	掘立柱建物・土坑・土壙墓・溝・水田	弥生土器・土師器・須恵器・貿易陶磁・近世陶磁	

要約

調査地点は砂丘の南西端に位置し、北側1/4が砂丘上、南側3/4が谷および流路である。砂丘上の遺構は古墳時代と考えられる土坑と井戸が出土した以外は中世から近世にかけてのもので、溝数条、井戸4基、土坑数基が出土した。谷は南北に延び、南端部では近世～近代の水田が出土した。中央部分では谷の埋没中に数条の溝が掘られており、遺物は龍泉窯系青磁碗等の貿易陶磁器が出土した。古代末から中世前半にかけて掘られたものと考えられる。谷の土層は厚さ15～30cmの灰白色シルトで大きく上下に分けられるが、上層では中世後半の遺物と共に古墳時代前期、古墳時代後期から8世紀、11～12世紀の遺物が多量に出土した。シルト下層は更に2層に分けられ、第1層は古墳時代前期、下層では弥生時代中～後期の遺物が出土した。弥生時代の層の底面は東側にむけて緩やかに傾斜しており、調査区内では立ち上がりは確認できなかったため、当時の谷幅はかなり広かったと可能性があり、砂丘の南側に開口する谷ではなく、砂丘を分断する河川の可能性が考えられる。

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1299集

吉塚 11

－吉塚遺跡群第13次調査報告－

2016年(平成28年) 3月25日

発行　福岡市教育委員会
　　福岡市中央区天神1丁目8－1

印刷　九州チューエツ株式会社
　　福岡県福岡市博多区東比恵2－9－1